財団法人 日本ハンドボール協会編　平成23年 2月1日発行(毎月1回1日発行)　通巻516号　昭和40年6月7日第3種郵便物認可

ハンドボール

特集

第16回 アジア競技大会
男子53回女子46回全日本学生選手権大会
第62回全日本総合選手権大会(男子の部)

1・2
JAN.FEB.2011・No.516

[表紙写真：アジア競技大会女子準決勝、日本対韓国戦から、藤井紫緒選手：写真提供・スポーツイベント社]

財団法人 日本ハンドボール協会
http://www.handball.jp/

いよいよ決戦の年！！

(財) 日本ハンドボール協会専務理事　川上 憲太

皆様、明けましておめでとうございます。このメッセージが皆様に届く頃には、１月の男子世界選手権の結果がすでに出ていることと思います。

2008年から３年間に亘り全日本男子・酒巻監督が「世界で、アジアで勝つにはまずフィジカル強化だ」として、かたくなに取り組んでいるのがフィジカルトレーニングです。これは『高くて、重たくて、スピード』のある世界、アジアのハンドボールに勝ち抜く基本的な部分です。これをベースにまずはきちんと守れなければ勝機はつかめないのです。『しっかり守って、速攻』が全日本男子の勝ちパターンです。60分間、全力で一瞬のスキも無く全員で守り抜いて相手の攻撃をブレイクし、速攻で点を取る、まさに「肉を切らせて骨を断つ」ような覚悟で挑まないといけません。アジアの各国の実力は紙一重だと思っています。ほんのちょっとした緩みが勝敗を分けることになります。ロンドンオリンピックの切符は、この気力・体力・集中力の集結で勝ち取るものだと思います。

「人が動く・ボールが動く」全日本女子・黄監督が掲げたこの３年間の指針が結果に結びついてきています。アジア競技大会、アジア選手権での「アジア№１になる」為のチームの追い込み、采配には決戦の日への手応えを感じさせるところです。

ロンドンオリンピック予選は、今年の10月に女子は中国、男子は韓国で開催されます。

男女とも、もう１枚、２枚の台頭してくる選手を加えてあと８ヶ月、徹底したトレーニングを積み重ねないといけません。男子においては、「ヨーロッパ、中東、韓国、中国」と、どんどん国外での合宿を重ねること、女子においても「高さ・スピード」に対する対策を更に充実させ、「カザフスタン、中国への対策」を含めて、究極の目標に向かって邁進して欲しいと思います。

今年は「うさぎ年」ということで、各方面で飛躍を望む声が聞かれますが、現実には日本の内外における環境は大変厳しいものがあり、スポーツ界への影響も否めません。その様な中で日本協会の運営執行にあたり、更なる覚悟が必要と身の引き締まる思いであります。一方で、私の気持ちは決戦の年を迎えて何故か「わくわくどきどき」と高鳴っております。常日頃からご支援、ご理解、ご協力を賜っています全国の皆様と共に、是非とも宿願の歓喜の祝杯をあげる年にしたいと思います。

皆様、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

「第16回アジア競技大会」は、全て写真提供：スポーツイベント社

■最終順位■

【男子】		【女子】	
1位	韓国	1位	中国
2位	イラン	**2位**	**日本**
3位	**日本**	3位	韓国
4位	サウジアラビア	4位	カザフスタン
5位	カタール	5位	北朝鮮
6位	バーレーン	6位	チャイニーズタイペイ
7位	中国	7位	タイ
8位	クウェート	8位	インド
9位	インド	9位	カタール
10位	香港		
11位	モンゴル		

第16回アジア競技大会報告

団長　川上 憲太

第16回アジア競技大会は2010年11月12日の開会式から11月27日の閉会式まで中国三大都市のひとつ広州で繰り広げられました。

大会は45カ国42競技参加人員1万4千人と北京オリンピック並みの規模で行われ、中国の国をあげての大会運営が際立っていました。

おりしも日中関係そして大会期間中に起きた韓国・北朝鮮問題等、国際問題が懸念される中、日本選手団に対しても充分な行動規範の徹底がなされ、選手村等のセキュリティが大変厳しかったことも手伝って、大きなトラブルは無くむしろ各国選手間の交流、中国国民の温かいもてなしで大変友好的に大会が運営されました。

天候も連日好天続きで気温15～25度と日本の初夏並みのコンディションが続き、選手達も快適に過ごせたと思います。練習会場・試合会場へはバス移動（25～40分）で大変スムーズに運営され、食事も24時間体制でおおむね好評で、プレーへの大きな障害とはなりませんでした。

今回選手村の外では、バスで15分の場所にJOC・JISSにて設置頂いた「マルチサポートハウス」により多方面にわたる日本選手団へのサポート体制が整備され、ハンドボール選手団も頻繁に利用させて頂き、戦いにあたって大変効果があったと思います。

ハンドボール競技は男子11カ国、女子9カ国が参加し、男女ともA・Bグループによる予選リーグ、各グループ上位2チームによる決勝トーナメントで戦われました。

試合の結果・内容・評価については強化本部長、スタッフの報告をご参照ください。

試合会場は広州の2つの大学のキャンパス内（キャンパスの体育館とは思えないスケール）にある体育館が使われ、観客数4,000人収容のハンドボール競技として申し分ない施設でした。セキュリティチェックが大変厳しい中観客数が心配されましたが、中国戦は満員だったのを始め応援も過激な行動は見られず各国に公平な応援がなされていました。レフェリングは従来の大会のような偏ったジャッジは無く、AHFのテクニカル担当によりフェアに進められました。

「世界を奪い返す」「アジアNo.1に返り咲く」の目標のもと、まさにアジアNo.1を決める本大会に臨んだ訳ですが、結果は男子銅メダル、女子銀メダルでありました。目標であるアジアNo.1には届きませんでした。

その中で女子代表が宿敵である韓国に準決勝で勝利したことはまずは評価に値するものを思います。しかし中国の台頭の前には力及ばずでありました。

本大会にアジアの強豪が出揃った訳でこの中で勝ち抜かなければロンドンオリンピック出場はありません。男子は韓国との戦いがありませんでした。中東勢の更なるレベルアップも考えられます。一瞬のゆるみが大きな点差に広がる非常に僅差の戦いが予想される中、これからの積み上げげにより綿密・周到な準備が必要と痛感しました。裏を返せば、日本にも十分チャンスがあるということです。女子は今回の状況を更にアップさせる為、選手補強、戦術、戦略の上積みを行って準備を進めていって欲しいと思います。

本大会の出場に際し、沢山のご支援ご協力を頂きました。関係各位の皆様に厚くお礼を申し上げますと共に、今後共宜しくお願い申し上げます。

男子

男子代表監督　**酒巻 清治**

日本代表男子チームは初の金メダル獲得を目指し大会に臨んだが、既に結果についてはご承知の通り、準決勝イラン戦において残り5秒での失点により敗戦。

3位決定戦では2度目の対戦となったサウジアラビアをなんとか下し、銅メダル獲得にとどまった。

アジア大会と世界選手権が同一年度内に開催されるシーズンにおいて、各選手とも気持と戦術の切り替えが非常に重要なファクターとなることは重々承知していたものの、やはりゲームは生き物、想像していた以上に「準備期間」の重要性を認識させられることとなった。11月1日に味の素NTCに集合し、筑波大学での野外研修、結団式、激励会、などにより緊急のチームビルドを行い、戦術においては8月欧州遠征までの課題へ取り組みながらチーム強化を図り大会に臨んだ。中国国内の情勢を気にしながらの訪中となったが、選手村の施設も素晴らしく特に大学生のボランティア達が対日感情などどこ吹く風、献身的に協力してくれたことは我々チームスタッフには最高の「もてなし」となった。

また、今回JOC初の試みとして「Team Japanサポートハウス」が選手村から20分ほどバス移動したホテルに設置され、日本選手団は温かい日本食を頂き、高圧酸素カプセルなどで心身の疲労を回復させることにフル活用出来たこともメダル獲得への大きな後押しとなった。

戦前よりキーポイントとなる試合に位置付けていたのが初戦のカタール戦。2月には抑え込んだ大型ポストに対して問題を抱えるようでは苦戦は免れないと覚悟はしていたものの、やはり悪い予感が的中。防御でリズムを作ることが出来ず、攻撃においては焦りから単調なコンビネーションに終始し、痛い星を落としてしまった。この時点でグループ1位の可能性はかなり低くなると精神的に追い詰められた状態で残りの試合を闘わなくてはならなくなったわけだが、二つの要因と選手の努力により奇跡的に予選リーグを1位で通過することができた。1つ目の要因として試合日程に恵まれていたこと。予選のグループの対戦国ではモンゴル・インドあたりは計算できる相手であり、その試合が強豪国との間に組まれていたこと。次に過去の経験から、初戦を落としたこととその後のカタールがいまいち調子が上がらなかったことで、得失点を露骨に計算できる状況になることが予想されたことによって、選手のモチベーションを回復できたこと、などがあげられた。「選手の努力」と前述した点はここから、初戦の敗戦のダメージは大きく顔色のない選手たちだったが、モンゴル戦での得失点へのこだわり、中国戦での一体感はコーチングスタッフが要求したものではなく、選手自らが築き上げたものだった。中国とカタールがグループ最終戦で引き分けるドラマがあり、予選リーグ1位で通過し準決勝のイラン戦に進むことが出来た。準決勝では気持ちとパフォーマンスが噛み合わず、攻守の切り替え時のリーダー不在とチーム戦術の統一感の欠如により、逆転負けを喫することになった。

この時点で再びチームの士気は低下し、選手たちはかなりの精神的なダメージを受けていたが、12年ぶりのメダル獲得に向け何とか気持ちを切り替え、3位決定戦に臨まなくてはならなかった。

3位決定戦では再びサウジアラビアとの対戦となった。準決勝敗退後選手たちがいかに気持ちを切り替えたか私の知るところではないが、ウォーミングアップを見た時点で「大丈夫」だと感じた。サウジアラビアは予選リーグの日本戦の敗戦はかなりショックだったようで（後にサウジの監督から打ち明けられた。というのも2月に接戦を演じている相手に徹底的に打ちのめされてしまった、ということらしい。）準決勝韓国戦での主将に一発レッドカードによる1試合の出

場停止の不運も拍車をかけていたようであり、何かしらウォーミングアップでも元気がない。試合は立ち上がり10分の攻防が全てであった。相手の攻撃の長所を徹底的につぶし、相手はなかなかリズムに乗れず、終始日本がゲームを支配する形で進み、相手ではなく自分たちに勝った日本が12年ぶりにメダルを獲得した。

最強豪国・韓国との対戦が出来なかったことは残念でならず、メダル獲得ということよりも悔しい気持ちをもっての帰国となった。

この機関誌が発行されている頃、我々は世界の強豪と相見えている。今回の課題はロンドン予選突破のためのチーム力アップに必要なものの精度が不十分であったと認識せざるを得ない。限られた時間の中で世界と闘いながら今回の課題克服に向け全力を尽くしロンドン予選に向けてさらにチーム力をアップさせていく。

大会参加に向け、ご尽力頂いたJOC並びに日本協会関係者、シーズン中にも関わらず惜しみなく選手を派遣してくださった所属チーム、遠い広州までご声援頂いたファンの皆さん、別れの際号泣するほど献身的なサポートをしてくれた中国人ボランティア、この誌面をお借りして御礼申し上げ、アジア競技大会の報告とさせていただきます。有難うございました。

女子

女子代表ヘッドコーチ　黄　慶泳

アジア大会について直前強化合宿の流れと大会の結果に対してご報告いたします。

大会の準備について

■直前強化合宿

1．直前強化合宿
　11月1日─13日（味の素NTC）
2．強化ポイント
　①トータルフィットネス（気力・筋力・走力）の再強化
　②優勝争いが予想される対戦国に対する戦術＆戦略の確立（韓国、北朝鮮、中国、カザフスタン）
　③女子大学生、高校男子と練習ゲームを通して試合感覚＆役割確認
　④点が取れない時間帯のゲームマネージメント力強化

大会について

■第1戦（勝）：対北朝鮮　31 ─ 27

国際試合の初戦そして北朝鮮チームに対する情報不足の面もあって、前半はもたもたする戦いになることを覚悟して試合に入る。

予想通りに前半立ち上がりから相手の勢いとスピードに圧倒されて追いかける展開になる。中盤以降からは攻撃的な守りが機能してビハインドを振り出しにして前半終了。

後半は、守りから速攻の点数が増えてきて一時期7点差まで突き放すゲーム展開となったが、メンバーチェンジを色々する間に失点も増えて、最終的には4点差で逃げ切った試合である。

■第2戦（勝）：対インド　32 ─ 16

前日の課題修正と同時に基本プレーの徹底をテーマとして試合に入る。

前半の立ち上がりから強引な突破に苦しめられる展開になっていたが、速攻による得点で大きく突き放して前半終了。

個々が孤立した守りをよりコンパクトに守ることと、ハイテンポの速攻の展開をすることをハーフタイムで再確認して後半に入る。後半立ち上がりから守りの修正は出来ていたが、途中から審判の判定に対するストレスからくるチームプレーの崩れが多く見られる展開となった。

試合は勝ったものの前日の勝ちゲームからくる気の緩みもあって、審判の判定に耐え切れず自分たちの姿を失ってしまう弱さが見られて課題が残る試合であった。

■第3戦（敗）：対中国　19 ─ 25

予選1位通過をかけた戦い。前半はポストを徹底して守る低いディフェンスの戦術で戦う。結果として守りの部分は成功したが、速攻とセット攻撃で足が動かず点に結びつけることができなかった。

後半からはより積極的な守りから走る戦術を導入した結果、互角の戦いをしてくれた。

前半の戦い方が悔やまれる試合であった。

■準決勝（勝）：対韓国　29 ─ 28

準決勝はA組1位の韓国との対戦。相手の個人技を組織でカバーする意識を持って6：0ディフェンスで対抗する。攻撃に関しては相手の裏のスペースとアウトスペースを徹底して狙う意識の中で組織的に動く。両方の戦術が上手く機能していて前半を4点差リードして折り返し、後半も中盤まで一時期8点差まで突き放す。しかし、不正交代からの2分間退場の間に相手に追い上げられて苦しい時間帯が続いたが、最後は守り勝って執念の1点差の勝利。

理想とする数字とは違うが狙いの1点差勝ちが出来たこと、接戦を勝ち切った経験は今後の戦いに大きな自信になるはずである。

■決勝：対中国　31 ─ 22

念願の国際舞台でのファイナルは予選ラウンドで一度負けていた中国との戦い。体格の大きい中国に対して攻撃的な守りからの速攻と粘り強く大きく揺さぶりながらアウトスペースを攻めることを意識して試合に入る。

前半は我慢強く守りリードされながらもゲームマネージメ

ントも出来ていて、１点ビハインドで折り返す。

後半守って速攻の形で逆転を狙うが、裏を取られる失点が増えて早い速攻が出来ない。攻撃も単調になり中央に追い込まれて高い壁を打ち破ることが出来ず、苦し紛れのシュートで決定率も低くなる。

結果として後半大きく突き放される完敗であった。

課題＆今後の取り組みについて

韓国に勝たなければアジア№１になれないとの考えの中で２年間チーム強化を進めて来た。それは韓国に勝つためのフィジカル強化と基本戦術の徹底であった。そして今現在のアジアチャンピオンである韓国を倒すことになると自然に他の国にも勝てるとの客観的な目線も含まれていた。

しかし、今大会の戦いと結果によって韓国だけではなく長身の中国とカザフスタン、北朝鮮という新たな壁があると認識している。中国はさらに体格の大きい選手が構成されていて、近年のアジア大会とオリンピック、そして世界選手権を経験して来た中心選手がチームをしっかり引っ張っている、ゲーム運びのテクニックとプレーの上手さもピークに達していると感じる。カザフスタンに関しても最近ロシアコーチを新しく招聘してからは試合の諦めがなくなっていて、守りのバリエーションも増え速攻がシンプルで非常に速い。北朝鮮は国際経験が乏しいが、スピードとスタミナはアジアで一番であるのは間違いないし、戦う執念は国の特性もあって別格のものがある。今大会で初戦の北朝鮮と準決勝で韓国に勝ったことは色々な準備をした中で収穫もあり、選手たちには良い経験と自信になったと感じる。

しかし、体格の大きさにプレーの強さと上手さを備えて来ている中国は、乗り越えなければならない壁であることを改めて強く認識していると同時に危機感を覚えている。

女子代表チームの今後の強化ポイントとしては

①連戦を勝ち抜くためのトータルフィットネスの更なる強化
②韓国に加えて中国に対する徹底した分析＆戦術、戦略作り
③練習ゲームも含めて国内、国際試合経験を増やして実戦の中でのチーム強化
④速攻も含めた攻撃力の強化

を重点的に考えている。

上記の項目は現時点でチームの課題として考えていることだが、長身選手の発掘と集中強化が日本としての戦略的な課題であることは間違いない。

今回のアジア大会では喜びもあり、悔しさも味わいました。

目指すのは金メダルのみ、金メダルが取れなかったらオリンピック出場は夢の話に終わると覚悟して大会に挑みました。しかし、準決勝で韓国には勝ったものの結果としては決勝で中国に負けての銀メダル。乗り越えなければならない壁（中国、カザフスタン）が高いと認識していますし、危機感を覚えています。相当な覚悟で努力を積み重ねければ今現在抱えてある課題は克服できないと思います。

皆様のご理解、ご支援頂きながらまた新たなスタートを強く踏み出して行きたいと考えますので、今後とも女子代表チームのご声援をお願い申し上げまして、アジア大会のご報告と致します。ありがとうございました。

戦評

男子

▼予選Aグループ

カタール　33（17－17、16－10）27　日本

アジア大会の初戦はカタール。立ち上がり、門山・宮﨑の得点で4対4の同点。カタールはポストにボールを集め得点を重ねていく。15分、DFシステムを3－2－1に変更し相手のリズムを崩そうとするが、速攻で村上が負傷退場してしまうなどなかなかリズムにのれず11対14とリードされてしまう。流れを変えたい日本は宮﨑・野村・末松らの得点で加点し、前半を17対17の同点で折り返す。

後半5分まで豊田・富田・門山のゴールで20対20とするが、ミスからの失点で20対22。その後も宮﨑、野村らの得点で食らいつくものの退場者をだしてしまい20分で23対26。21分、海道のカットインが決まり24対26。何とか追いつきたい日本だが、焦りからかミスが多くなり、それを速攻に持ち込まれ、連続失点で25分で25対32と7点差に。残り5分を切り、宮﨑が連続得点するが、27対33で敗戦。大事な初戦で勝点を得ることができなかった。

【得点】9点:宮﨑、8点:野村、4点:村上、2点:門山、1点:豊田、末松、海道、富田

日本　64（28－10、36－4）14　モンゴル

アジア大会の2戦目はモンゴル。立ち上がりから積極的なDFで相手のミスを誘い、末松の速攻で先制すると、野村・海道・富田・武田と4連続得点で5対1。中盤以降もGK浦和を中心としたDFが機能し、森・門山らの5連続速攻などで得点を重ね、前半を28対10で折り返す。

後半も豊田・東長濱・村上・藤田らの6連続得点で34対10。その後も宮﨑らが11連続で得点し、リードを広げていく。GK松村も好セーブを連発し、64対14で勝利。

【得点】9点:宮﨑、8点:末松、7点:村上、森、6点、豊田、藤田、5点：野村、4点：東長濱、3点：岸川、海道、門山、2点：武田、1点：富田

日本　27（12－10、15－12）22　中国

アジア大会の3戦目は地元の中国。会場は中国サポーターで埋まり、完全アウェイの雰囲気での試合となる。立ち上がり、中国にポストシュートを決められ先制されるが、すぐに宮﨑のミドルで同点。日本は早いパス回しからスピードを活かしたプレーで得点。対する中国は高さを活かしたプレーで得点していき、15分過ぎまで7対7の同点。20分過ぎ、日本はシュートミスから連続失点で9対10と逆転されるが、前半終了間際に豊田・野村・末松が3連続得点し前半を12対10で折り返す。

後半、村上の連続得点で14対10。5分過ぎには中国が不正交代で退場者を出す間に岸川・宮﨑の得点で18対13。さらに富田の連続得点で20対14とし徐々に点差を広げていく。中盤には森・豊田・末松・東長濱らの5連続得点で25対16と9点差をつける。その後ミスから3連続失点するが、藤田のポストが決まり26対19。試合終了間際、日本が退場者を出す間に連続失点するものの27対22で中国に快勝した。

【得点】6点:豊田、5点:宮﨑、3点:村上、2点:末松、岸川、富田、野村、東長濱、1点：藤田、森、門山

日本　54（26－13、28－13）26　インド

アジア大会の4戦目はインド。相手のパスミスから村上が速攻を決め先制。インドのゆっくりとしたセットOFにリズムを崩され失点するものの、富田・宮﨑・野村・武田と連続得点で加点、15分までに13対6とリードする。その後もインドのミスを速攻に持ち込み、森・宮﨑・東長濱が得点し前半を26対13で折り返す。

後半も攻撃の手を休めず、末松・豊田・岸川らが加点。DFもGKを中心に安定した連携で失点を抑え、8分までに32対15とリードを広げる。残り10分を切ってからも藤田・海道・豊田・門山・野村らの連続速攻で得点を積み重ね、グループリーグ下位のインドに54対26で勝利した。

【得点】8点:豊田、宮﨑、6点:末松、5点:東長濱、4点:武田、富田、3点:村上、岸川、森、野村、門山、2点:藤田、海道

日本　36（16－14、20－14）28　サウジアラビア

アジア大会、予選リーグの最終戦はサウジアラビア。

開始直後、門山・宮﨑の豪快なミドルで2対0と先制。DFではGK松村の3連続セーブなどで開始10分で5対5の同点。相手のラフプレーで宮﨑が一時、負傷交代する場面もあったが村上・豊田・武田らの連続得点で20分までに11対5とリードする。このまま勢いに乗りたい日本だが、3連続失点で13対11と2点差に詰め寄られる。悪い流れを野村・富田らの得点で凌ぎ、前半を16対14の2点リードで折り返す。

後半立ち上がり、日本は退場者を出してしまい、16対16の同点に追いつかれるが、すぐに宮﨑・村上らの得点で19対17と再び2点リードする。サウジは徐々にスタミナを奪われ退場する場面が多くなると末松・門山らの得点で26対21。残り10分を切り、またもサウジに退場者が出ると、ここで一気に野村・東長濱らの得点で33対24と9点差。試合終了間際にはダメ押しの岸川のポストシュートが決まり36対28で勝利した。

最終戦のカタール－中国の試合が25対25の引き分けだったため勝点8で予選Aグループの1位通過が決定した。準決勝はBグループ2位のイランと対戦する。

【得点】7点：門山、6点：豊田、野村、5点：宮﨑、4点：村上、3点：末松、2点：武田、1点：岸川、富田、東長濱

▼準決勝

イラン　30（15－16、15－13）29　日本

アジア大会、準決勝・イラン戦。武田のミドルで先制すると、豊田・岸川の連続得点で4対1とリードする。7分過ぎ、宮﨑の連続得点6対3となるとイランは宮﨑にマンツーマンDFを仕掛け、5－5での攻防となる。その後は村上・豊田・岸川・野村らの得点で20分まで13対7と6点リードする。しかし22分過ぎ、お互いに退場者を出してしまうと、この間に3連続失点を許し13対10。日本は門山のカットイン、岸川のミドルで加点するが、ミスからの連続失点で前半を16対15の1点差で折り返す。

後半、イランは宮﨑・門山にダブルマンツーを仕掛け、OFのリズムを崩しにかかり、5分過ぎに18対19と逆転を許す。しかし、広くなったDFのスペースをうまく利用し、門山が得点。さらに相手のパスミスを宮﨑が速攻を決め20対19。DFではベテランGK坪根が好セーブを連発し、両チームとも1点を争う試合展開となる。中盤は宮﨑・武田・豊田らで加点するが一歩抜け出すことができない。残り10分を切り、末松のミドルで28対28の同点に追いつくとDFが踏ん張りを見せ、相手のミスを誘う。

シュートチャンスを得るもののゴールを決めることができず28対29と1点ビハインドに。残り2分、豊田のサイドシュートで再び同点。一気に逆転に持ち込みたい日本は残り1分、7mTのチャンスを得る。しかし、これを相手GKに阻まれてしまい、残り2秒で逆転ゴールを決められ29対30でタイムアップ。

【得点】7点：豊田、6点：岸川、5点：宮﨑、3点：門山、2点：末松、村上、武田、野村

▼3位決定戦

日本　27（13－10、14－10）20　サウジアラビア

アジア大会、3位決定戦・サウジアラビア戦。準決勝のイラン戦と同様にゲーム開始直後から宮﨑にマンツーを仕掛けるサウジに対し、門山の速攻で先制すると5分過ぎまで3対3の同点。流れをつかみたい日本はGK松村の連続セーブから村上・豊田が得点し5対3とリードする。中盤に一時8対9と逆転を許すが、サウジに退場者が出る間に野村・門山・宮﨑と連続得点で12対9。松村に代わって入ったGK坪根も好セーブを連続し、前半を13対10で折り返す。

前半終了間際に岸川がDFで危険プレーと判断され、レッドカードで退場し不利な状況だったが、富田がポストシュートを決め14対11。さらに村上・末松らの連続得点で20対14とリードを広げるとサウジは門山にもDFをつけダブルマンツーに。DFの広くなったスペースを末松が効果的に攻め込み得点を重ねる。しかし23分過ぎ、末松が速攻で相手と接触しながら放ったシュートが相手GKの顔面に当たるとこれを危険プレーと判断されレッドカード。不利な状況にも海道・豊田がゴール。最後は試合終了間際に13mから打った宮﨑のロングシュートが決まり、27対20で勝利。

両チーム合わせて12回の退場者が出る荒れた試合となったが12年ぶりにメダルを獲得し、大会を終えることができた。

【得点】8点：豊田、5点：末松、4点：門山、3点：宮﨑、野村、2点：村上、1点：海道、富田

女　子

▼予選Bグループ

日本　31（14－14、17－13）27　北朝鮮

アジア大会初戦は長らく国際舞台から遠ざかっていた北朝鮮。試合序盤は両チームとも初戦の緊張感もありなかなかペースがつかめずにいたが、4分すぎから北朝鮮の強引な突破から失点を繰り返し2対6と追いかける展開となる。ここから日本も藤井・植垣・中村の活躍により6対7と1点差まで詰め寄り日本ペースになるかと思われたが、ここで相手に3連取を許し、またも4点差と広げられる苦しい展開が続いた。しかし、終盤にDFが機能しはじめると、北朝鮮のミスを誘い速攻がつながり前半を14対14で折り返す。

後半に入ると、前半終盤から機能しはじめたDFが、北朝鮮OFを単調にさせ、苦し紛れのシュートをGK田代がセーブすると、日本OF陣もこれに答える形で後半10分すぎに20対16とリードする。ここから北朝鮮の粘りにあうが、DFで踏ん張りサイド陣若松・高橋の活躍もあり3連取・4連取と連続得点を重ね、残り5分で30対22と8点差となった。試合終盤、北朝鮮に連取を許す展開となり課題が出る部分もあったが、結果31対27で見事初戦を勝利した。

【得点】10点：藤井、5点：高橋、4点：植垣、中村、3点：東濱、若松、1点：伊藤、新城

日本　32（19－6、13－10）16　インド

アジア大会2戦目はインド。立ち上がり相手の強引な攻撃に対し受身なDFをしてしまい、3対2となかなかリズムが掴めず歯がゆい展開が続いた。前半8分すぎからようやく藤井・中村・植垣による速い展開での得点を重ね、前半を19対6とリードして折り返した。

後半に入ると立ち上がりから新城・伊藤の速攻で4連取し、着実にリードを広げてはいったのだが、インドの長い攻撃に対

し我慢できずに失点してしまうケースが多く、最終的なスコアは32対16とDFにおいて課題の残る試合となった。

【得点】6点：植垣、藤井、3点：高橋、中村、石立、若松、2点：伊藤、新城、横嶋、1点：東濱、塩田

中国　25（12－6、13－13）19　日本

アジア大会3戦目は地元開催の中国。完全アウェーの中、植垣の豪快なシュートで試合が動き出した。しかし中国は19番、10番の巧みなシュートを決められ、中盤2対6とリードされる。ここから、日本のDFはやや低めに守り18番のポストを封じる作戦が功を奏し、2点差と詰め寄るが単純なミスが連続し、逆に点差を広げられ6対12と6点差で前半を終える。

後半、日本は攻撃的なDFシステムに変更するが、なかなか点差を詰めることができない歯がゆい時間帯が続き、中国の高さを生かしたOFを止めることができず、19対25と6点差で勝利することはできなかった。

【得点】8点：藤井、6点：植垣、2点：高橋、石立、1点：中村

▼準決勝

日本　29（15－11、14－17）28　韓国

アジア大会準決勝はAグループ1位の韓国。日本のスローオフからスタートした試合は藤井の2連取で好調な滑り出しとなったが、韓国も個人技で対抗し序盤は互角な戦いとなった。しかし、ここから韓国OF陣の個人技を組織だったDFで封じ込め、速攻につなげる理想的な展開が続き中村・新城・伊藤・藤井・植垣の5連取へとつなげ、10対5とリードを広げる。中盤以降は、一進一退の攻防が続くが日本OF・DFともに要所で踏ん張り前半を15対11で終える。

後半の立ち上がり、中村の2連取でペースをつかむとDF陣もこれに答える形で韓国OFを押さえ込む。中盤最大8点差がつく展開となったが、ここから韓国OF陣が目をさます。日本の退場などもあり、3連取・4連取とたちまち2点差に詰め寄られ、たまらずタイムアウトを要求する。タイムアウト後、落ち着きを取り戻し藤井が得点し26分3点差とするが、ここで韓国に2連取され1点差とこの試合最大の窮地に追い込まれる。29分日本のOF、藤井から東濱へ見事なスカイプレーが決まり2点差。その後1点返されるが29対28と見事勝利をおさめることができた。

【得点】9点：藤井、6点：植垣、5点：中村、3点：高橋、東濱、1点：伊藤、新城、若松

▼決勝

中国　31（14－13、17－9）22　日本

アジア大会決勝戦は予選で1敗した中国。前回対戦時と同様完全アウェーの中試合が始まり、6分過ぎまで一進一退の攻防が続いたが、ここから中国に3連取を許し3対6とリードされる。しかし、日本もDFで踏ん張り藤井・東濱・早船の活躍で8対9と1点差まで詰め寄る。ここからまた、一進一退の攻防が続き必死に中国に喰らいつき13対14で前半を終える。

後半に入ると、日本は集中力を欠いたプレーを連続してしまい10分で15対20と5点のリードを許してしまう。ここで踏ん張りたい日本ではあったが、イージーなテクニカルミスが相次ぎ、なかなか点差を詰めることができずに、24分18対26と大きくリード広げられる。試合終盤オールコートDFを仕掛けるが点差を縮めることはできず、22対31で敗れて準優勝となった。

【得点】7点：藤井、5点：東濱、3点：早船、2点：高橋、新城、1点：植垣、石立、若松

第13回女子アジア選手権
2011年世界選手権予選

[最終順位]
優勝：カザフスタン
2位：韓国
3位：中国
4位：日本
5位：北朝鮮
6位：ウズベキスタン
7位：タイ
8位：イラン

第13回アジア女子選手権大会及び世界選手権予選

日本代表団長　西窪 勝広

カザフスタン・アルマトイにて標記大会が開催され、8カ国中4位で来年ブラジルで開催される第20回世界選手権出場権を獲得した。

参加国4カ国、同じホテルでの運営であった。

■テクニカルミーティング（小藪コーチ、西窪）

①世界選手権出場数をテヤブに確認

※上位4チームである

②ユニフォーム広告料支払

③ AHF参加者

※テヤブ　※カラフ　※タワコリ　※バリ

何ら問題なく終了した。レフェリーはカザフスタン・UAE・イランの3カ国がノミネートされていた。

2011年冬季アジア競技大会がアルマトイにて開催のため、運営に関して本大会を踏まえ数多くのボランティアで選手係もその国の言葉を話せ、コート内外と素晴らしい内容であった。レフェリーの判定に関しても、レフェリーの判定基準の誤差はあるものの公平であったことは間違いない。

このままアジアの正常化を祈りたいものである。

強化本部長に就任し「アジアNo.1に返り咲く」為に何をすべきか投げかけ、各カテゴリーで勝つかそれに等しい試合をしないと日本代表だけでは大変厳しいと問題提起した。

アジア大会で2位という成績を裏付けるためにも重要な大会であった。

韓国には残り20秒で同点に追いつき引き分け、カザフスタンとは後半の中盤以降に離されて敗れ、中国との3位決定戦では60分間死闘を演じたが1点差で惜敗し4位で終了した。

「人も動く、ボールも動く」という黄ヘッドコーチの方針の下、最後まで戦いぬく姿勢は今後の強化に大いに期待できるものと確信した。しかし、大型のカザフスタン、中国の選手に対する対策はロンドンオリンピック予選に向けて大きな課題である。闘争心あふれるプレーで日本人の持つスピードを生かした強化に取り組み、世界で戦える体力を強化し「アジアNo.1に返り咲く」を必達したいものである。

打倒韓国に照準を合わせてきたが、韓国、カザフスタン、中国と大きな壁ができたことも事実である。

まだまだ課題は山積しているが、日本の忘れかけていた「スピード」を原点としたハンドボールを今大会で私自身再確認できた大会でもあった。

報告にあたり今大会は本当に色々な方々のお力で乗り切ることが出来ました。特に選手、スタッフを派遣いただきました所属チームには、2ヶ月間という強化期間にご理解いただきました事に心からお礼申し上げます。ご尽力いただきました関係各位に御礼申し上げ、報告といたします。

第13回女子アジア選手権大会（2011WC予選）について

女子代表ヘッドコーチ　黄　慶泳

大会の準備について

#直前強化合宿

①国内合宿（11月28日－11月29日：味の素NTC）

＊強化ポイント

・アジア大会の課題修正

・フィジカル強化を含めてコンディション調節

②海外遠征（11月30日－12月7日：ロシア）

＊強化ポイント

・世界トップ国であるロシア代表チーム、クラブチームとの強化試合の中で、ノウハウを肌で感じて学ぶ

・ロシアの指導者と戦い方、戦術、トレーニング方法等に関する意見交換

・アジア大会の課題修正（対中国に対する戦い方＆戦術の確立）

・攻撃戦術のバリエーションを増やす

③国内合宿（12月9日－16日：味の素NTC）

＊強化ポイント

・最終的なコンディション調節

・対戦相手国の分析＆戦術、戦略の確立

・筋持久力＆筋パワーの強化

・女子ジュニアアカデミー選手、男子高校との練習試合の中で戦い方＆役割確認

大会について

期間：2010年12月19日－25日

会場：カザフスタン、アルマトイ
Ａ組：中国、カザフスタン、イラン、北朝鮮
Ｂ組：韓国、日本、タイ、ウズベキスタン

＃第１戦（勝）：対ウズベキスタン　57 － 22

初戦であることと移動の疲れもあり、コンディションが非常に心配である戦いであった。大きい相手に対する戦いの中で準備したこととのブレは無かったが、守りの部分でロングシュートの対応が遅れることと攻撃でポストを絡めるプレーが上手ではなかった。試合は大差で勝ったものの、リバウンドの徹底等色々と課題が多く残る試合であった。

＃第２戦（勝）：対タイ　38 － 16

前半立ち上がりから速い速攻を意識してハイテンポのゲームで、試合の主導権を握りながら相手を前半から大きく突き放す。しかし、ディフェンスリバウンドを取られる場面も多く、ミドルシュートでの失点もあり前半はストレスがたまる試合でもあった。後半は明日の韓国戦を意識して自分たちが準備した攻守のパターンを確認してみた。

＃第３戦（引き分け）：対韓国　22 － 22

アジア大会後韓国はスタッフと選手を入れ替えて日本との試合にかけてきている。その中で韓国が今までと違うハンドボール展開をしてくることを予測して準備、対応することを心掛けて試合に挑む。前半立ち上がりで６：０ディフェンスから攻撃的に攻めてくる守りを崩せずリードされるが、交代して入った石立のカットインプレーから全体の流れを呼び戻す。そこで韓国は高い３：２：１守りに変更してくる。日本はまたも足が止まる部分もあったが、GK の藤間がファインセーブを連発して同点で前半を折り返す。後半も中盤まで一進一退のシーソーゲームが続いたが、日本の退場の間にリードを許す展開となる。そこで経験豊かな早船選手が不利な状況でも連続で得点し、日本の流れに変わって残り１分で同点。しかし、韓国のタイムアウト後にサイドに展開を持ち込まれて１点リードを許し、日本はピンチに追い込まれる。日本も残り 30 秒で作戦タイムを取って最後の攻撃に対する意思統一を図り、若松のサイド得点で引き分けとなる。悔いが残る試合であったが、選手たちは最後まで戦ってくれた。

＃準決勝（敗）：対カザフスタン　24 － 29

４連続の試合の影響と相手の長身選手に対抗するためには、フィジカル的な面に置いて非常にハードワークをしなければならないのだと覚悟して試合に挑む。前半立ち上がりから守って速攻のチャンスは作るが、シュートミスから相手に勢いを乗せてしまう展開となった。その流れから相手にディスタンスシュートとポストにボールを集められて、失点が多くなる中で、藤井のカットインと新城のサイド攻撃があり前半を３点ビハインドで折り返す。後半は守って速攻のイメージを持って入ったが、アドバンテージもある長い攻撃に最後にやられる失点が多くなって追いつくことなく５点差負けとなった。前半はシュートミスから自分たちの流れを相手に渡して苦しい展開となったこと、後半は最後の最後に失点が増えて来て速攻による点数が増えなかったことが全体的な敗因であると考える。

＃３位決定戦（敗）：対中国　24 － 25

アジア大会後３週間は中国に勝つことだけを考えてチーム強化してきた。自分たちの努力と準備もあり、今後のことを考えれば絶対負けられない試合である。この試合のテーマは完全にポストを封鎖することと相手のベンチを揺さぶるために戦術の変化を激しくすることであった。それに選手たちはよく対応してくれてアジア大会では６点差と９点差で２度負けたチームに今回は勝ちきれなかったが１点差まで詰めてくれた。現場の責任者として悔しい思いはあるが選手たちの頑張りは評価をするべきだと思うし、それなりの価値がある負けだったと考えている。

課題＆今後の取り組みについて

アジア大会では韓国には勝って中国に負けたこともあり、対中国に対する分析と対策が大会前の大きな強化ポイントであった。その意味を持ってロシア遠征、NTC にて最終確認をし、大会に挑むことにした。

ロシア遠征では過酷な日程の中で連戦を戦いながらチームがタフになったことと大型選手との戦いの中で細かいテクニックも使えるようになったことなど収穫もあった。しかし、実際にアジア選手権を戦う中で、予選ラウンド３試合と準決勝を立て続けに４試合を戦わなければならない日程に変わったところで、疲労と体力の消耗量をカバーできる気力と体力がなかったことが敗因の一つであると認識している。

そこで課題としては、

①接戦の状況で連戦が続く中でもファイトが出来る強靭な気力と体力
②真剣勝負が出来る国際試合の経験
③日本の戦術と対戦相手のことを考えて大型ポストプレーヤーの発掘

以上が、今後の戦いを準備する中でクリアしなければならないことだと感じている。今までのアジアは韓国が一歩飛び出している状況であったが、今回の大会では日本、韓国、中国、カザフスタンの４強体制となってきている。そして北朝鮮も耽々とチャンスを狙っていて、４強を脅かす存在である。

今までは韓国一本の強化戦略であった。しかし、各国の力が紙一重の僅差であることからみるとどの国にもチャンスがあると考える。日本もその厳しい競争の中でも勝つチャンスがあると認識しているので、危機感を持って良い準備をすればオリンピックは夢の話だけではないと感じる。

最後になりますが、長い間選手たちの派遣を許していただ

いた各チームの監督及び関係者に改めて感謝いたします。そして選手たちによい環境を作るために努力していただいたハンドボール協会の皆様、スポンサーの皆様、そして応援してくださった皆様には大変ありがたく思っております。

今大会では優勝報告は出来ませんでしたが、選手たちは間違いなく成長していてタフになってくれています。

オリンピック出場の強い一心で努力し続けていますので、今後ともご支援いただきますよう宜しくお願い申し上げまして、大会報告と致します。ありがとうございました。

戦評

▼予選リーグBグループ

日本　57（31－11、26－11）22　ウズベキスタン

アジア選手権大会初戦はウズベキスタン。天候悪化のため各チームがカザフスタン入りが遅れる中、日程変更を余儀なくされスタートした大会となった。コンディションが心配される日本ではあったが、立ち上がりから持ち前の機動力を前面に出し、ウズベキスタンディフェンスを翻弄すると、植垣・新城が確率よく点数を量産し前半を31対11とリードする。後半に入ると点差が開いたせいか、集中力の欠けるオフェンスが続き淡白な試合運びをしてしまう時間帯があった。しかし残り10分、今大会メンバー入りした吉田の活躍、塩田の体を張ったディフェンスなどで再び日本ペースに持ちこみ、57対22の大差をつけ終了した。

【得点】植垣・新城8、高橋・塩田6、早船・藤井・吉田5、若松・石立4、横嶋3、中村・巻・東濱1

日本　38（20－8、18－9）17　タイ

アジア選手権大会2戦目はタイ。日本は試合序盤からポストを起点とするOFシステムで得点を重ねていく。対するタイは単調なOFでなかなか日本DFを崩せず、徐々に点差が開く展開となる。中盤相手のシュートに対するリバウンド処理を怠る局面が続きストレスを感じながら20対8で前半を終了する。後半修正をかけた日本が、まずはDFで相手OFのミスを誘い速攻につなげ点差を広げていく。中盤からDFシステムを攻撃的に変え相手の動きを封じにかかる。詰めの甘さが出る局面もあったが交代した選手の活躍もあり38対17で終了。

【得点】藤井11、植垣6、石立4、中村・若松・早船3、東濱・吉田・塩田2、新城・横嶋1

日本　22（10－10、12－12）22　韓国

アジア選手権大会3戦目は韓国。アジア大会からメンバー・スタッフを入れ替え雪辱に燃える韓国に対して、日本は序盤相手のアタックDFに足が止まりミスを連続し速攻につながれ4対7とリードを広げられたところでタイムアウトを要求。タイムアウト後、落ち着きを取り戻した日本は徐々にペースを取り戻し終盤10対8とリードする。しかし残り2分のところで相手が退場したチャンスを活かしきれず、逆に2連取され10対10で折り返す。後半、韓国がスピードで圧倒しようとするが日本DF陣も踏ん張り1点を争う一進一退の攻防が続く。中盤、韓国が2点差に広げペースを掴むかと思われたが、ここで前半から好調であったGK藤間の好セーブもあり、日本にペースを持ち込み逆転に成功する。残り1分21対21の同点の場面で韓国側タイムアウト、日本もDFシステムの確認をしたが、3番キムオナに決められ21対22となる。すかさず日本もタイムアウト。次はOFシステムを確認し試合再開、韓国の退場を誘いパワープレーをものにし22対22で試合終了となった。試合の前後半終盤ともに、突き放すゲームマネージメントができなかったことが課題として残る試合となった。

【得点】藤井6、新城・東濱・若松・早船3、横嶋2、高橋・植垣1

▼準決勝

カザフスタン　29（16－13、13－11）24　日本

アジア選手権準決勝の相手は地元カザフスタンとの対戦となった。試合は大型な選手を揃えるカザフタンが、体格の差を活かし強引なオフェンスで得点していく展開に。日本は積極的なディフェンスで動きを封じにかかるが、単発なロング・ステップシュートが入りなかなかペースがつかめない状況が続き、前半を13対16で終える。後半、ディフェンスで粘りたい日本だったが、前半同様パッシブの手があがるまで守るがポストやロングで得点を許してしまう歯がゆい展開が続き、4～5点差を行き来する。結局終盤までその展開が続き24対29で終了、中国と3位決定戦にまわることになった。

【得点】藤井12、中村4、植垣・新城2、高橋・石立・東濱・早船1

▼3位決定戦

中国　26（15－14、11－11）25　日本

アジア選手権大会3位決定戦は中国との対戦となった。アジア大会で2連敗している相手に対し、絶対に勝つという信念をもって挑んだ日本。試合序盤、互いに譲らない緊迫した立ち上がりとなりなかなか試合が動かない状態が続く。しかし、中盤にさしかかると日本のオフェンスのミスが続き、流れを中国に持って行かれる。前半終盤、中国の足が止まったところで石立の1対1が効果的に決まり、15対14中国のリードで折り返す。後半、日本ディフェンスは前半と同様にシステムを小刻みに変え、徹底してポストを守り中国オフェンスを崩しにかかる。しかし中国はサイドで確率よく点を重ね、残り10分日本は6点差をつけられる。ここから日本の速攻・セットプレーで追い上げるが、相手の退場の機に点が取れず、25対26で試合終了となり4位で終えた。

【得点】藤井・植垣6、石立・早船4、東濱3、新城・中村1

平成22年度 第62回全日本総合ハンドボール選手権大会 男子の部

大崎電気が5年ぶり10回の優勝を飾る！

総評　東京都ハンドボール協会理事長　樋口 道夫

平成22年度第62回全日本総合選手権大会は、女子がアジア選手権参加のため今年度も男女別開催となった。男子は駒沢体育館において大崎電気の5年振りの優勝で幕を閉じた。

決勝戦は大崎電気と初の決勝に勢い立つトヨタ車体の一進一退の攻防で展開し、共に鍛え抜かれた技術と精神力は、まさに賞賛に値するものであった。リーグ戦からの波に乗る大崎電気が粘るトヨタ車体を突き放し優勝杯を手にした。2000人近い観客・応援団も試合を大いに盛り上げてくれた。また4強の大同特殊鋼は5連覇を大崎に阻まれ、3位表彰式のときの末松・高木選手の無念の表情は心に残った。同じく湧永製薬は車体を最後まで苦しめる好試合であった。琉球コラソンはけが人を出しながらも善戦し目を引いた。

今大会は日本リーグ勢をジャパンオープンの上位チーム、学生4強がどこまで追い上げるかも見所であった。その中で唯一8強入りし、大同と善戦した日本体育大学は特筆されよう。Hondaも大崎と互角の試合を演じ会場を沸かせた。学生チャンピオンの国士舘大学もよく健闘し長崎社中を1点差で下し、豊田合成に1点差で敗れたものの選手も監督もゲームを楽しんでいる印象を受けた。

またJHAジュニアアカデミーの活躍も大会を盛り上げてくれた。大型選手を揃えた期待の星達がスピードにあふれ、果敢に攻撃し続けるゲームは会場を沸かせた。攻守に安定した早稲田大学を僅少差で破り、琉球コラソンには後半に互角の展開をみせた。この試合で中学生の安倍選手が2得点したが、総合での初記録か気になるところである。限られた練習のなかでここまでチームをまとめたスタッフの努力も賞賛したい。

今大会の開会式で歓迎の挨拶をされた金丸恭文都協会新会長がご自身の経済界での体験を交えて、ロンドンオリンピック出場権奪取の檄をなげかけられた。ハンドボールファン全体の願いであるが、今大会で活躍された選手の皆さんでぜひとも実現していただきたい。

今回のすべての試合が日本の競技力向上に繋がっていると確信している。

今大会を実施するにあたり、日本協会役員の方、事務局の方の助言・アドバイスには本当に助けられた。また多くの協賛企業の方のご協力や関東協会・東京都協会役員の献身的なご協力、高体連・中体連の先生方に感謝したい。また関東学連の方には準備・運営と大変お世話になった。彼らがいなかったらこの大会は成立しなかったであろう。ほんとうに色々な方にお世話になり、ただただ感謝の念で一杯である。

そして何よりも大会を盛り上げていただいたファンの皆様、サポーターの皆様、ほんとうにありがとうございました。観客の皆さんのおかげで試合が盛り上がり、競技が発展していくものと再認識し、次大会以降もお客様をお迎えする立場で準備を整えていきたいと思います。その節はまたご来場をよろしくお願いいたします。

優勝チームのコメント

大崎電気ハンドボール部監督　岩本 真典

はじめに、第62回全日本総合ハンドボール選手権大会を開催するにあたりご尽力いただいた東京都ハンドボール協会、（財）日本ハンドボール協会、ならびに関係各位の皆様に改めて心より厚く感謝、御礼申し上げます。

この度、私たち大崎電気は第62回全日本総合ハンドボール選手権大会において5年ぶり10回目の優勝を果たすことが出来ました。これも一重に日頃から大崎電気ハンドボール部を支えてくださっている渡邊オーナーをはじめ社員の皆様、そして多くのファンの方々の力あってこその結果だと思っております。

そして何より選手20名の努力の賜物だと思っております。ベンチ登録の選手は勿論、ベンチを怪我や戦術という理由で外れた選手もチームの為に最善を尽くし、選手20名がひとつになって大きな力を発揮し、役割を果たしてくれたことに感謝しております。しかしこれを継続しなければ意味がないと思っています。これまで以上の努力を重ねて、これからの大会でも安定した力を発揮し継続して勝てるチームを目指し、日々精進していきます。今後とも、大崎電気ハンドボール部を宜しくお願い致します。

大崎電気ハンドボール部コーチ　佐藤 良彦

第62回全日本総合ハンドボール選手権大会におきまして5年ぶり10回目の優勝をすることが出来ました。これもひとえに日頃から大崎電気ハンドボール部を支え、応援して下さっている多くの方々のおかげだと感じております。また今大会の運営にあたりましてご尽力をいただいた大会関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。

今回は全日本総合選手権直前に選手6名がナショナル活動のためチームを離れ、チーム内にもケガ人が数名いた為、全体で合わせる時間がほとんどない状態で大会に臨むことになりました。そのような状況の中、選手たちはそれぞれ自分の役割をしっかりと理解し、チームの為に最後まで戦い、行動してくれたことが優勝に繋がったのだと感じております。

これからまた日本リーグが始まり、プレーオフまで試合が続きますが、チームスローガンの「For the team」を念頭に置いて今シーズン残りの試合を戦っていきたいと思います。今後とも大崎電気ハンドボール部をよろしくお願いいたします。

試合結果・戦評

平成22年度第62回
全日本総合ハンドボール選手権大会〈男子の部〉

▼1回戦	日本体育大学	32（16－10、16－19）29	HC山口
	Honda	28（12－14、16－10）24	日本大学
	国士舘大学	27（13－9、14－17）26	長崎社中
	JHAジュニアアカデミー選抜	30（15－16、15－13）29	早稲田大学
▼2回戦	日本体育大学	34（17－14、17－13）27	北陸電力
	大崎電気	30（15－15、15－13）28	Honda
	豊田合成	27（15－11、12－15）26	国士舘大学
	琉球コラソン	35（20－12、15－14）26	JHAジュニアアカデミー選抜
▼準々決勝	大同特殊鋼	37（19－15、18－18）33	日本体育大学
	大崎電気	35（14－12、21－18）30	トヨタ紡織九州レッドトルネード
	湧永製薬	36（19－15、17－11）26	豊田合成
	トヨタ車体	24（11－11、13－10）21	琉球コラソン

▼準決勝

大崎電気　32（14－10、18－13）23　大同特殊鋼

現在日本リーグで首位を走る大崎電気と2位で全日本総合5連覇のかかる大同特殊鋼が対戦する見どころ十分の準決勝第一試合は大崎が東長濱のミドルシュートで先行、大同も末松のミドルで取り返す展開からスタートした。中盤まで大崎が東長濱、猪妻、宮崎らの得点でリードし、大同は末松、武田、熊谷らのシュートで追いかける様相となった。26分過ぎに大同は山城のサイドシュートで10対10の同点にするが、すぐに大崎は東長濱のミドルと速攻、宮崎の速攻、豊田のサイドシュートで突き放し、14対10の大崎4点のリードで前半を終了した。

大崎は後半開始早々GK浦和の好セーブとスローから全員が走り、小澤、宮崎、東長濱らの速攻で6連続得点し、スパートを図る。大同は8分過ぎの山城の得点が後半初得点であり、15分には24対13と完全に大崎ペースとなった。その後大同は武田、地引、岸川らが懸命な反撃を試みるも大勢は変わらず、32対23で大崎電気が勝利した。大崎電気の気迫と走りが大同特殊鋼を圧倒したゲームであった。

トヨタ車体　23（15－11、8－10）21　湧永製薬

6年振りの優勝を狙う湧永製薬と悲願の初優勝を狙うトヨタ車体、決勝に向けて負けられない両チームの激戦が予想される一戦。序盤から気合十分の車体はセンター木切倉を中心とした速い球回しから、エース門山がポスト藤田へのポストパス、高智のロングシュートなどで得点を重ねる。対する湧永はDFからの速攻に転じるが、車体GK甲斐にシュートを阻まれ点差が縮まらず、7mスローも車体GK坪根に2本止められ苦しい展開。中盤車体も富田のポストを利用し得点を上げるが、湧永の堅いDFの前に思うように点差を広げられず、湧永の新人樋口のミドルシュートなどの応戦を受け、4点差・5点差が続き15対11の車体リードで前半が終了する。

後半、車体は門山からのパスをポスト藤田が確実に決める。湧永は東長濱のロングシュート、木村のポストシュートで3点差に詰めよる。その後車体は4連取し、20対13と7点リードする。湧永は福田・佐藤のサイドシュートで反撃するが、車体GK甲斐の好セーブで点差が縮まらない。終盤湧永古家の4連取で点差を一気に2点差まで詰めるも要所でのミスが響きタイムアップ。トヨタ車体が23対21で勝利し初の決勝進出を果たした。

▼決勝

大崎電気　36（16－12、20－17）29　トヨタ車体

第62回全日本総合選手権大会のファイナルは5年振りの優勝を狙う大崎電気と初の栄冠を目指すトヨタ車体との対戦。今期の日本リーグで1勝1敗の互角の勝負をしてきた両チームによる決勝は家永・福島両国際レフェリーの審判によって車体のスローオフで始まった。立ち上がり車体は高智のカットイン、佐々木のリバウンドシュート、銘苅の7mスローなどで3対1と大崎をリードする。対する大崎は5分過ぎからGK浦和の好セーブとナイススローが際立ち、小澤、豊田、横地の連続速攻などで10分には8対3と逆転する。直後車体はタイムアウトを請求するが、大崎の勢いは止まらず岩永の速攻、東長濱の3連続得点で中盤までに12対3と大きく差を広げる。20分過ぎから車体はGK甲斐の美技をきっかけに門山、鶴谷の速攻、崎前のサイドシュートで追い上げ、前半は大崎が16対12と4点リードして前半を終える。

後半開始早々大崎は永島のポストシュート、2分過ぎの宮崎のミドルシュートなどで加点し、車体の追撃を許さない。その後も大崎は速攻などから小澤、豊田、永島らが追加点を上げる。車体は20分過ぎから石戸、富田、崎前らが4連続得点し、25対29と追い上げ、流れを引き込もうとするが、大崎は宮崎が24分過ぎからミドルシュートと高い打点のジャンプシュートで4得点を上げ、勝利を引き寄せた。大崎電気が36対29でトヨタ車体を破り、10回目の優勝を果たした。

Photo Snap

第 62 回全日本総合ハンドボール選手権大会〈男子の部〉

会場は２年連続東京駒沢体育館

トヨタ車体応援旗

大崎電気と日本体協・ＪＯＣの旗

大崎の選手と入場行進（多摩市ハンドボール教室）

車体の選手と入場行進（東久留米ハンドボールクラブ）

決勝審判　家永・福島ペア

大崎・宮崎選手のハイジャンプ

大会 MVP の大崎・小澤選手

車体・門山選手のスカイパスカット

車体・退場時キーパー揚げての６人攻撃

車体・崎前選手のサイド攻撃

大崎・岩本監督胴上げ？　胴が持ち上げられない！

渡邊会長から優勝の大崎・永島選手への賞状授与

多田副会長から準優勝の車体・佐々木選手への賞状授与

記者会見（左より、小澤選手・岩本監督・宮崎選手）

平成22年度

高松宮記念杯男子第53回・女子第46回

全日本学生ハンドボール選手権大会

【最終順位】
■男子　優　勝：国士舘大学
　　　　準優勝：日本体育大学
　　　　3　位：日本大学、早稲田大学
■女子　優　勝：大阪教育大学
　　　　準優勝：大阪体育大学
　　　　3　位：筑波大学、日本体育大学

男子は、国士舘大学が24年ぶり2回目の優勝
女子は、大阪教育大学が初優勝

報　告

全日本学生ハンドボール連盟副委員長　**城所 真也**（日本体育大学）

11月19日から23日までの5日間にわたり、男子32大学・女子24大学が参加し、大阪市中央体育館・舞洲アリーナで開催された。

男子は、国士舘が日体大5連覇を阻み24年ぶり2回目、女子は大阪教育大学が31回目の出場・通算3度目の決勝進出で延長の末、大体大に競り勝ち初優勝を飾った。

男子は、日体大の5連覇を何処が阻むか、また、此処6年間で1回、大体大がベスト4に進出以外は関東勢が占めており、関東勢がベスト4を占めるか注目されたが、優勝候補の一角、西日本第一シードの大体大が、因縁の対戦（6年連続対戦）である早稲田に3回戦で敗れ、関東勢がベスト4を独占した。

ベスト8では、国士舘～中京大・大体大～早稲田戦が注目を集めたが、波に乗る国士舘が逆転で勝利、また、早稲田も昨年のリベンジを果たしベスト4へ。準決勝戦は、国士舘が日本大を破り、逆転で勝ち上がった。日体大は早稲田に秋季リーグで敗れた借りを返して5連覇を目指し決勝へ進出。

決勝戦は、先行する日体大を国士舘が追う展開となったが、砂川を中心としたまとまりのある全員ハンドで、スピードとキレで粘り強い戦いぶりを見せ、残り2分で追いつき、延長戦と思った残り2秒、ダブルスカイを決めて劇的な優勝を飾った。

女子は、ここ数年、関東勢の筑波大・東女体大へ関西勢がどう挑むかという展開であったが、今大会は西の第一シードの大体大と第二シードの大教大に、関東勢の筑波大・日体大・東女体大がどのように絡むかという形となった。

準決勝戦は、東西の第一・第二シードが順調に勝ち上がり、筑波大―大教大・日体大―大体大となり、関西勢が勝ち上がった。

決勝戦は平成17年以来の関西勢同士の対戦となった。どちらが勝っても初優勝であり、個人技と高さのある攻撃力を見せる大教大か、粘り強いDFと何処からでも得点できる総合力の大体大が、楠本監督の初采配と合わせて注目の一戦となった。大教大が途中で8点差をつけられたが、徐々に追い上げ、残り26秒で追いつき、延長に入った。追い上げた勢いで、大教大が勝利し初優勝した。

大会を振り返り返ると、男子は、函館大がシードの桃山学院に勝利したりと、ここ数年、男女共に、地方勢のレベルアップが見受けられた。また、今大会は東海勢にやや元気がなく、シードの名城大が関東二部の順天堂に敗れ、5大学が1回戦で敗退、ベスト8には中京大のみの進出であった。同志社が久しぶりにベスト8に進出したが、大体大と合わせベスト4進出ならず、関東勢の勢いが目立っていた。

女子も関東・関西・九州以外の地方勢のレベルアップで、一回戦から好試合が展開されていたが、関西勢の進出が顕著で、男子は、東高西低気味、女子は西高東低が見受けられた。

選手個人を見ると、男子は、優秀選手にも選ばれたGK高尾（国士舘）・GK熱田（早稲田）をはじめGK陣で目立った選手が多かった。女子は逆にCPで目立つ選手が多かった。

関西学生ハンドボール連盟および大阪ハンドボール協会主管で運営されたが、本年も多くの方々のご支援ご協力で無事開催された事、また、多くの方々のご観戦を戴き、誌面を借りてお礼を申し上げます。

男子優勝：国士舘大学

平成22年度全日本学生ハンドボール選手権を終えて

国士舘大学ハンドボール部監督　**藤村 孝司**

11月19日～23日の間、大阪市中央体育館で行われたインカレ決勝戦を終え、メインコートで涙ながらに喜ぶ選手達、そこに駆けつけて喜びを分かち合う控えの部員達を見ながら、「勝てた」・「勝ってしまった」と心の中で叫びながら体育館の天井を見上げていた自分を思い出します。

今年の国士舘大学のチームは４年生が中心で２～３名の下級生で構成されており、他大学と比較しても身長が低いのを感じていましたので、このチームで戦える戦術として「全員ハンドボール」を目指してきました。個の能力が劣っていても二人・三人で助け合うことを練習の中心とし、機会あるごとに話をしてきたことを選手が理解してくれたことがこの大会の成果に結びついたように思います。

春季リーグ戦を３位という成績で終え、しかしながら秋季リーグは６位と低迷しましたが、今年の関東一部リーグの大学はどこのチームが優勝してもおかしくないほど力の差が拮抗していましたので、一戦一戦すべてが気を緩めることができない試合ばかりでした。そんな中、４年生中心なので、毎週のように就職試験や怪我等で練習に出られない選手で思うようなチーム練習ができていない状況でしたから、最後のこの全日本インカレには万全の準備をしていこうと考え練習していました。

守りでは本学の取り入れている５－１DFは一対一の間が６－０DFよりも広いので基本的な考え方として、大きな選手とスピードのある選手の「一対一は守れない」から、カバーリングの必要性と相手選手の抜かせる方向性を明確にすることと、ハンドボールでは最も重要と思う個人のコンタクトの強さを求めました。また、攻撃では、身長の小ささを運動量でカバーすること「長身の選手の三倍を動く」・「連動した動きに緩急をいれる事」を選手に要求してきました。いかに大きなDFを動かし、小さなスペースを最大限のスペースに作り出せるかを課題として練習をしました。

今、思いだしてみても本当に凄いことを成し遂げてくれた選手達だと思います。

小さい選手でも「チーム一丸となって挑めば道は開ける」ことを実践してくれた４年生ですから、後輩達にも大きな夢と希望を残してくれたと思っております。

最後に、24年ぶりの感激と感動とを与えてくれた選手達に、心からありがとうと感謝申し上げます。

女子優勝：大阪教育大学

インカレ優勝に思う

大阪教育大学女子ハンドボール部監督　土井 秀和

3度目の正直でした。やっと優勝することができました。近年、それなりの成績を上げてはいたのですが、なかなかたどり着くことができない長い道のりでした。

歴史は繰り返されるといわれますが、今回はまさにそうでした。

第41回大会（2005年）、大阪教育大学は初めて決勝戦に駒を進めました。相手は武庫川女子大学。どちらが勝っても優勝旗が初めて箱根の山を越える記念すべき大会でした。終了20秒前まで勝っていました。勝利を信じて疑いませんでした。悪夢の同点シュートが決まり、延長で敗れ去りました。

今回は全く逆の展開になりました。つくづく勝負事は怖いなと思います。と同時に、改めていろいろなことを学びました。

一つは、月並みですが、試合は決して諦めてはいけないことと、守りに入らず常に積極的に臨まなければならないことを教えられました。

さらに、昨年の決勝戦で完敗したことが今回生きました。チームは準決勝で勝ったことに満足し、最後まで集中力を保つことができませんでした。今回は最初の試合から決勝戦までがセットされていました。

三つ目は、準決勝、決勝戦で他のクラブの学生や、保護者による大応援、大声援を受け、大きな力をもらったことです。我々は多くの人たちに支えられているのだと改めて教えられました。

他にも多々ありますが、いろんな意味で、優勝はチームに大きな力を与えてくれました。来年も是非ともこの素晴らしい体験が得られるようチーム一丸となってがんばりたいと思います。

男子

■準決勝（11月22日・大阪市中央体育館）

国士舘　32（9－16・16－9）29　日本大
延長3－1・4－3

中京大に逆転勝利した国士舘と常に先手を取って同志社に快勝した日本大は、共に、関東学生リーグで戦っている手の内を知りすぎている対戦となった。立ち上がり、渡部の先制点でペースを握った日本大が、コンスタントに加点。国士舘はうまくかみ合わず、砂川・小船・濱口の得点はあったが、前半は7点差で折り返す。

後半に入り速攻からの草間の得点から前半とは見違えるコンビネーションを見せて、後半15分までにGK高尾の好守を背景に日本大を4点に抑える間に、米満、小船他が加点し、2点差に追い上げ、その後は1点を取り合う展開となった。28分18秒同点となったが、28分54秒日本大が得点し振り切ったかと思われたが、残り22秒で国士舘が追いつき延長戦へ。

国士舘は、米満で先制、日本大渡部に返されたが、その後は、米満、濱口で加点し、日本大を振り切り決勝戦進出を決めた。

日体大　37（16－13・21－19）32　早稲田

秋季リーグで早稲田に敗れている日体大と大体大に勝った早稲田の注目の対戦となった。5連覇がかかる日体大にとり関門と言ってよい対戦であり、立ち上がりから気迫あるプレーを見せたが早稲田も対抗。探り合いから信太で先行した日体大に対して、早稲田も仁平で返したが、日体大が常に先行。しかし18分に岸部のポストシュートで早稲田が追い付き、26分まで1点を取り合う好ゲームを展開。28分18秒、早稲田のミスを突いた小室の得点から日体大が3連取し優位に立ち前半終了。

後半も立ち上がり早稲田のパスミス等から3連取した日体大が優位に立ち、早稲田は気負いからミスの目立ち、更に野間の負傷退場でペースを乱し、そのまま、日体大ペースで進み、早稲田も終了間際3連取したが、時すでに遅く、日体大が決勝に進出した。

■決勝戦（11月23日・大阪市中央体育館）

国士舘　28（10－15・18－12）27　日体大

開始早々日体大が3連取したが、国士舘も3連取する。その後は、光武・小室・土井などがコンスタントに得点し日体大ペースで進む。国士舘も濱口のミドルなどで得点したが、20分34秒砂川で10対12までとしたものの、その後、日体大GK木村の好守もあり無得点に終わり、10対15と日体大リードで前半終了。

後半に入り国士舘は、スピードとキレが戻り、12分13秒までに砂川の速攻・濱口のミドル他で8得点し、その間、日体大を3点に抑えて19対18と逆転。その後は、要所で濱口のミドルが決まり優位に立ったが、日体大も27分45秒新名のカットインで再逆転。しかし、国士舘も28分58秒菊池で同点、29分50秒タイムアウト後、延長戦かと思われた時、残り2秒、センターから左サイド、更にセンターへ飛び込んできた草間へのダブルスカイで劇的な勝利、日体大の5連覇を阻み、24年振り2度目の優勝を飾った。

◎個人賞
優秀選手賞：高尾浩平（国士舘）、熱田　翔（早稲田）
砂川慶成（国士舘）、草間英刀（国士舘）
小室大地（日体大）、信太弘樹（日体大）
渡部　仁（日本大）
特別賞：木村昌丈（日体大）、上野承太（日本大）、藤本純季（早稲田）

女子

■準決勝戦（11月22日・大阪市中央体育館）

大教大　29（10－10・19－13）23　筑波大

実力伯仲でどちらが勝ち上がってもと見られていたが、大教大は翁長で先制、筑波もすぐ安部の速攻で返し、以後、1点を取り合う展開で進む。筑波大はエース作内が欠場で、ややパワー不足が窺えたが、石野、山野でカバーし、27分に筑波大が山野のミドルで2点差としたものの、大教大も増田がすぐ返し、28分10秒で同点に追いつき、10対10で前半が終了。

後半5分までは1点を取り合ったが、5分過ぎ、急に筑波大DFの乱れが生じた。そこを大教大が衝き、翁長を皮切りに乾、森脇他連続6得点で18対14として、一挙にペースをつかむ。途中、石野の負傷退場でペースダウンした筑波大は11点を決めた山野の活躍も実らず、大教大が決勝へ進出した。

大体大　26（16－9・10－11）20　日体大

大体大は、大学初采配の楠本監督、また、洛北高校出身者に河田（高松商）を擁したバランスのとれた布陣で西日本・関西リーグを制して波に乗って、15年ぶりにベスト4進出を果たした古豪日体大との対戦となった。共にDF陣が頑張り11分経過時点では4対4であったが、大体大が11分57秒田辺で抜け出し、河田のミドル・角南（涼）のカットイン・田邉でコンスタントに得点、日体大も原のミドル・鎌倉のポストシュートがあったが、散発的で、大体が16対9と7点差をつけて折り返す。

後半も大体大ペースで進み、河田・角南（涼）・高山他で確実に加点し、日体大の反撃を20点に押え、14年ぶりに決勝進出を果した。

■決勝戦（11月23日・大阪市中央体育館）

大教大　32（11－14・14－11）30　大体大
延長2－3・5－2

5年ぶりにインカレ史上2回目の関西勢同士の決勝戦となった。高さと個人技の目立つ大教大と堅いDFと速さとキレのあるOFを見せる大体大との対戦は、大教大が開始20秒で先行したが、大体大もすぐ返し、その後は、1点を争う展開となった。22分、河田のミドルから3連取した大体大が更に25分36秒から3連続得点で前半を14対11とした。後半にはいっても大体大ペースがつづき13分44秒河田のミドルで、21対13とリードした。しかし、その後、15分28秒の翁長のミドルが決まって目が覚めたように大教大が反撃。残り15分間で大体大を4点に押えると共に大体大が逃げ切るかと思われた29分34秒に乾の同点シュートが決まり延長戦へもつれ込んだ。

延長前半、大教大は1点差をつけられていたが、延長後半、田邉の3度目の退場失格からリズムを乱した大体大に、増田・石田で29対28と逆転。しかし大体大も、すぐ河田で同点とする。3分50秒森脇・4分26秒乾が決めて2点差とし、4分38秒、角南に決められ1点差に迫られたが、終了2秒前、石田のダメ押しシュートが決まり、31回目の出場で初優勝を飾った。どちらが勝ってもおかしくない戦いであった。

◎個人賞
優秀選手賞：石田千帆（大教大）、翁長和佳子（大教大）
乾　彩友美（大教大）、後藤千渡世（大体大）
河田知美（大体大）、山野由美子（筑波大）
鎌倉絵美子（日体大）
特別賞：森脇奈菜（大教大）、高山綾乃（大体大）

厚生労働大臣賞 第8回日本車椅子ハンドボール競技大会

総評　大会会長　小西 博喜

第８回大会にして、朝日新聞社大阪本社・日刊スポーツ新聞社の後援認可を頂きました。とりわけ障害者の部については、全員が障害者ということもあって、金・銀メダルの賞品は誠に有意義なものを感じています。したがって、本年度の大会は大会実施種目に新しく障害者の部を設け、従来通りの競技の部とフレンドリーの部（小学生普及）と合わせて３種目で競うことに致しました。

障害者の部については、全員が障害者であることが必要であるため、参加が危ぶまれておりましたが、今回参加チームもあり開催することが出来ました。今後、この部門を普及するに当たり、第一歩になる重要な大会であると考えております。

また、今回、彦根レイカーズ（滋賀）は滋賀県ハンドボール協会理事長前川和三氏（(財) 日本協会参与）の声かけで、意欲がまとまり参加が決まったようであります。数回の練習でもベテラン勢の中で、善戦健闘出来る素晴らしい力を発揮したことは、今後の活動に大きな夢を与えたものと確信します。

そして、春先に、残念な訃報がありました。宮城フェニックスチームの６回優勝に大きな貢献をされた故下田 悟氏（45歳）（本連盟理事）が不治の病魔に急逝されました。故下田選手は宮城国体の時からチームづくりに貢献され、また、選手としても豪快なシュートで活躍されました。本連盟の発展のためにも開会式前に全員黙祷を捧げ決意を新たに致しました。ここに謹んで心からお悔やみ申し上げたいと思います。

大会を通じて特に、宮城フェニックスの個人技を生かした優勝は当然の結果ではありますが、ドリーマーズが延長戦に持ち込んだことの善戦は感動的なものでありました。また、WSSKのポストプレーを生かした攻撃の確実性とゴールエリアライン際の厳しい得点は印象的でした。尚、京都伏見スパローズのベテラン勢の試合のヨミは攻撃にも有効なパスが再三見られ、シュートチャンスを生かした健闘ぶりは称賛に価すると思います。

戦評

競技の部

■準決勝

宮城フェニックス（宮城）　20（10－2、10－3）5　大阪体育大（大阪）

宮城は開始早々、パスカットから速攻で先制し、その後３対０とリードした。大体大も寺尾のサイドシュートで１点はゲットしたが、宮城の攻撃の流れが止まらず、宮城は着々と加点し、10対２とリードした。後半、巻き返しを図りたい大体大は早いパス回しからシュートを狙ったが、宮城のディフェンスを崩しきれなかった。試合巧者の宮城はポストを中心に攻め、相手のミスを速攻につなぎ点差は一方的に開いた。地力を持つ宮城の圧勝といえる。（笠中生也）

ドリーマーズ（京都）　18（5－7、8－6 / 4－1、1－1）15　WSSK（和歌山）

試合は１点を争う好ゲームとなり、延長戦にもつれる試合となった。ドリーマーズはGKの攻守とポストプレーの流れをうまく組み立てシュート力に生かしたのがよかった。立ち上がりは両チーム共に慎重な互角のスタート。前半10分過ぎWSSK内田のポストシュートが決まり、5対4でドリーマーズがタイムアウト。その後、ドリーマーズは篠原のポストプレーで同点とし、さらには山本、篠原の得点で突き放す。しかし、WSSKも奮起した動きで一進一退の展開、河合の得点で延長戦になる。延長戦はドリーマーズ真下を中心にポストシュートが決まり、延長後半も５連続得点を重ね、ドリーマーズがそのまま守りきって勝利した。WSSKは内田が終了間際にゴールを決め、白熱したゲームを展開。両チームの健闘を讃えよう。（山本隆重）

■決勝戦

宮城フェニックス（宮城）　15（5－7、5－3 / 3－0、2－3）13　ドリーマーズ（京都）

決勝は昨年と同じ顔合わせ。前半ドリーマーズ梶松GKの好守備などで４連取と一方的な展開で進んでいたが、次第に一進一退の攻防となり、さすがに決勝にふさわしい好ゲームを展開。前半終了間際にフェニックス斎藤の速攻が決まり僅差。後半、フェニックスはGK勝又の攻守で流れをつかみ、逆にドリーマーズはシュートミスが目立ちミスを生かした、フェニックスの連取で逆点に成功する。しかし、ドリーマーズの大前がゴールして10対10と再びタイ。延長戦に入る。ドリーマーズはエース真下を中心に反撃したが、経験豊富な宮城フェニックスは７度目の優勝を飾った。点の取り方の巧みな宮城のねばりに屈した白熱したゲームであった。（山本隆重）

障害者の部（朝日新聞社後援メダル贈）

■決勝

ドリーマーズ（京都）　10（4－3、6－2）5　ネルフ（大阪）

前半ドリーマーズは真下の攻撃中心からディフェンスへの切り替えが早く、ネルフは得点にならない。５分、ネルフ山本のロングシュートが決まり。また、ドリーマーズの速攻で同点に追いつくシーソーゲーム。ネルフ松本の「しっかり守ろう！」の一声でチームが引き締まった。決勝戦だけにお互いのディフェンスの当たりも強くなり、１点差でドリーマーズが折り返した。後半、５分ネルフ左腕木下のミドルシュートが決まり、再び同点となる。後半７分、ドリーマーズは打点の高い山本のシュートが決まり、パラリンピックに向けた初優勝を飾った。（東岡亮介）

JOC男子U-16日韓交流事業を終えて

団長　田中　茂
（財）日本ハンドボール協会

【事前合宿】平成22年8月31日～9月5日
【合宿場所】味の素ナショナルトレーニングセンター（ANTC）
【韓国派遣】平成22年9月5日～9月10日
【開催場所】韓国（太田市）
【日本受入】平成22年10月9日～10月14日
【受入場所】味の素ナショナルトレーニングセンター（ANTC）

事前合宿

・目的
1．日本代表U-16としての自覚と責任をしっかりともって合宿に参加する
2．日韓親善ではあるが、韓国に対して勝ちへのこだわりをしっかり持ち戦う
3．U-16としてしっかりとしたチームになる
4．体つくりを含め、1日7000キロカロリーを摂取する
5．トレーニングは常に100%で行う

以上の項目を今回の強化合宿で選手達に目的としてしっかりと伝達してある。

・プレー面の約束事
1．パスのスピード（キャッチからパスまでの動作の素早さ＋パスの速さ）
2．DFでの強いあたり→ハードヒットの意識
3．ノーマークシュートの確実性
4．速攻→縦パスの意識（早くフロントコートへボールを運ぶ）

・合宿の成果

成果としては、合宿の目的、プレー面の約束ごとをしっかりと選手達も自覚し一歩一歩成長してきたと感じるが、まだまだ発展途上の選手達故により多くの合宿を組むことでよりいっそうの成長があるのではないかと感じた世代である。

韓国派遣

合宿での約束事を韓国との試合でいかに出せるかが今回の遠征の目的でもありました。

実際には、韓国代表チームとの親善試合は1試合のみでしたが、韓国チームとの合同練習、またお互い日韓のスタッフが中心になりポジション別、部門別の細かい指導を経験することができ、選手達にも我々スタッフにも大変勉強になる内容の日韓交流でありました。今回の選手選考にあたり大型選手の育成を踏まえ、日本代表としては今までにない大型選手が選考され、韓国側が体格の違いに驚き、また日本の強化方針についても多くの質問を受けました。

試合内容としては、積極的に前を狙う姿勢があるときには体格の有利さが生きており良かったが、やはり要所で韓国もディフェンスを3－3DFや3－2－1DFに変化した事に対しての組織的プレーでの韓国ディフェンスを崩す攻撃の習得が、日本は不十分で攻めあぐむ場面が多くあった。ディフェンス面では体格を利用した6－0DFや5－1DFが良くDFからの速攻（ボールを縦に運ぶ）を中心とした得点シーンが多くみられた。ただ最終的には勝ちへのこだわりが日本より韓国が上だったようにも思う。

試合結果　日本　36（18－17・15－17）38　韓国
延長（1－3・2－2）

日本受入

日本の受け入れであるが、味の素ナショナルトレーニングセンターを十分活用し日韓ともに満足いく合宿であった。日本受け入れの際も韓国での親善以上に合同トレーニングを増やし相互の指導観点、技術を学び合う時間を増やすともに、選手達には実戦練習を多くすることで、日本は韓国のスピード、ステップワークに対して、韓国は大型選手への対応をお互いが多く学んだ。

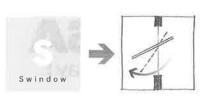
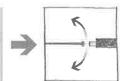
試合内容としては、韓国での敗戦もあり、何が何でも勝ちに対してこだわる姿勢を見せる、技術、戦術も当然必要であるが、それ以上にスタッフが重要視したのは勝つ姿勢を強調した。しかし前半から得点は取れリードするが、チームとしてのムードが、雰囲気が全然伝わってこない。淡々とした試合展開の日本に対し、韓国は負けているにも関わらずチームに勢いを感じた。当然、ハーフタイムに修正をするものの、チーム全体としておとなしい選手が多いのか、勝つ意識が薄いのか、技術、戦術以前の課題も浮き彫りにされた。後半も何とか1点差で逃げ切っての勝利ではあったが、完全燃焼しての、また戦う集団としての目標を置いたにもかかわらず、満足いく結果ではなかったと感じる。

試合結果　日本　32（16－12・16－19）31　韓国

総　括

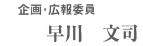
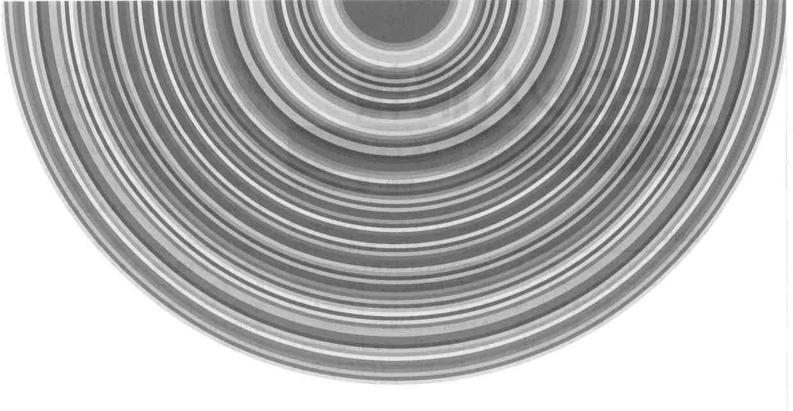
U-16年代がアジアのライバル国、韓国と公式試合ができたことは彼らの今後の活動に刺激になり、また現段階での自分たちの力がわかったのではないかと思う。

成果としては、選手たちが今まで日本国内のトップ選手であり、その実力に甘んじていた部分が多く、親善試合とは言え、やはり国際試合を経験することにより、まだまだ自分たちの実力（精神的部分・フィジカル面・技術面）のなさ、勝ちに対する甘さに気がついたことが一番の成果であった。

最後になりましたが、今大会参加するに当たりJOCをはじめ、韓国KOC、選手所属高校、中学、また多くの関係者にご協力賜りました事を深く感謝いたします。ありがとうございました。

～発展につなぐ2011年に～

企画・広報委員
早川　文司

Free Throw フリースロー

　明けましておめでとうございます。今年のハンドボール界を考える時、まず脳裏に浮かぶのが「ロンドン・オリンピック予選」です。今回こそ悲願が達成できるのか。ではなく、達成しなければいけない大きな課題である。
　昨年のアジア大会で日本女子はアジアの女王、韓国を撃破した。しかし、地元中国の壁は突破できず、銀メダルに終わった。36年ぶりとなる「ロンドン」への道は開けるのか。収穫と課題が交錯した大会だったのではなかろうか。
　一方の男子も頂点には立てなかった。３位決定戦でサウジアラビアを下して４大会ぶりの表彰台だったが、こちらも女子と同じように課題が見え隠れした。
　共通の課題は勝ち抜くスタミナ、パワーアップにあるように感じる。女子の中国は大型が持ち味。男子のサウジアラビアはパワーが看板だ。こうした相手と戦う中では、時間経過とともに体力が消耗する。世界の舞台で結果を残すには、まずそのあたりのクリアが重要な要素の一つではなかろうか。
　10～11月に予定される予選まで、男女ともかなりのキャンプを行うということだが、どこまでスタミナを含めたチーム力を向上させることができるか。日本ハンドボール界を挙げてのしっかりしたサポートで、宿願にチャレンジしてもらいたいものである。
　そのトップチームを支えるのが、各カテゴリーの強化にあることは間違いない。段階的に年齢に合わせた指導プログラムをつくり、可能な限り強化を図り、試合の場をできるだけ多く提供したいものである。
　その一方で、普及活動も欠かせない。将来の日本を背負う子どもたちの人口は、減少傾向にある。どの競技団体も自らの競技にどう誘い込むか知恵を絞って入るが、どこも“妙案”は浮かんでいないのが正直なところのようである。
　でも、手をこまねいていては始まらない。「ハンドボールは面白い」「ぜひハンドボールをやってみたい」などの気持ちにさせる努力が必要だ。
　大会に合わせていろんなイベントの開催など“誘導作戦”は行われているが、決め手はなかなか見つからない。まずは大会情報をどのように一般の人たちに知らせるかが大切だろう。それぞれのチームで地域の人たちとの触れ合いの場を増やしたり、小・中学校、あるいはクラブへの指導者派遣など、じっくり腰を据えた対策も重要だ。
　いずれにしろ、どうすれば“ハンドボールの輪”が広げられるか。強化と普及、振興は一体なはず。そこをどのようにクリアし、発展につないでいくか。ハンドボール界の行方が試される2011年かもしれない。

ヨーロッパ情報

第5回：2010 ヨーロッパ選手権大会から

村松　誠（編集委員）

はじめに

これまでヨーロッパの国内大会や、クラブ別のチャンピオンズリーグやヨーロッパカップについて述べてきました。今回、偶然にも2010年男子ヨーロッパ選手権を観戦することが出来ましたので、大会の様子や、同時に開催されているトップコーチセミナーなども含めて述べておきます。

ヨーロッパ選手権について

ヨーロッパ選手権は、各国・地域から16チームが参加して、世界選手権の間の隔年で行われています。アジアでは、アジア選手権に当たりますが、アジアの様に本大会にストレートインはできません。それは、ヨーロッパ連盟には49の加盟国・地域があるからです。本大会にストレートインできるのは、開催国と前回チャンピオンだけで、その他の14チームは予選を経なければなりません。ヨーロッパのハンドボール人は、ヨーロッパ選手権は、世界選手権より質の高い、世界一の大会だと言っています。これは統計データを見てみれば、なるほどと頷くことが出来ます。2010年大会を見てみれば、ルーマニアやスイスなど、世界の強豪国も予選で姿を消し、本大会に出場していない事からも窺われます。

予選も熾烈

2010年大会の予選は、開催国のオーストリアと前回チャンピオン国のデンマークを除いた36チームが7グループに分かれ、それぞれホームアンドアウェイの2回戦を戦い、上位2チームの合計14チームが本大会に進んでいます。

この予選の第1ラウンドは、2008年10月29日に始められています。これは前回が2008年1月30日にデンマークの優勝で終わっていますので、9カ月後にはすでに次回の予選が始まっている訳です。そして、第10ラウンドが2009年6月21日に終了し、本大会の出場チームが決定しています。8か月の長丁場を戦う訳ですが、前々回にも述べたとおり、トップ選手は、この間に、チャンピオンズリーグやヨーロッパカップ、それに国内リーグと試合をこなしており、まさにハードスケジュールと言わなければならないでしょう。

予選グループ別に、状況を見てみます。先ず第1グループは、スウェーデンが6勝2分け、ポーランドが5勝2敗1分けで勝ち進みましたが、ここでは伝統国のルーマニアが3勝4敗1分けで予選敗退をしています。しかしながら、2010年世界選手権には、プレーオフでロシアを破り、本大会出場を決めています。

第2グループは、6チームで構成されました。ロシアが9勝1敗、セルビアが7勝2敗1分けで本大会に進出しています。ここでは、スイスが4勝5敗1分けで4位に落ち込み本大会出場を逃しています。

第3グループは、アイスランドが5勝3分け、ノルウェーが5勝1敗2分けで本大会にコマを進めていますが、3位のフィロマセドニアが4勝3敗1分けと、最も混戦の予選リーグとなりました。

第4グループは、7勝1敗でクロアチア、6勝2敗でハンガリーが本大会に進出しています。このグループは比較的安定したグループと言えると思いますが、3位に付けたスロバキアは、チェコスロバキアの時代には、世界のトップグループに位置づけられていた国です。また、スロバキアも世界選手権にはプレーオフで勝ちあがり、出場を決めています。

第5グループは、8戦全勝でドイツが安定した力を見せました。2位にはスロベニアが6勝2敗で本大会にコマを進めています。

第6グループはフランスとチェコが直接対戦1勝1敗で、共に6勝2敗で、本大会に駒を進めました。3位は5勝3敗でポルトガルが付けましたが、第9ラウンドで3敗となり、予選敗退が決定しています。最終ラウンドでは、フランス、チェコ共に試合には負けましたが、ポルトガルは追いつくことはできませんでした。

第7グループは、スペインが7勝1敗、ウクライナが5勝3敗で本大会進出を決めています。3位のオランダは、得失点差ではウクライナを上回りましたが、3勝3敗2引き分けと勝ち点で、ウクライナの後塵に甘んじました。まさに1点の重み2回で本大会出場を逃したわけです。

以上の様に、全勝で本大会に駒を進めたのはドイツのみで、勝ち切るということは本当にヨーロッパでは難しい事だと言うことでしょう。

2010 ヨーロッパ選手権 in オーストリア

ヨーロッパ選手権本大会は、2010年1月19日から1月31日まで、オーストリアで開催されました。予選リーグAグループがグラーツ、Bグループがリンツ、Cグループがインスブルック、Dグループがウィーンニュースタッド。オーストリアの西から東までの全土に渡って開催されています。

予選リーグでは、ウクライナとスウェーデンが3敗で敗退。セルビアとハンガリーが1分け2敗で敗退しています。スウェーデンは熊本世界選手権の準優勝チームで、1990年代は常に世界の上位に顔を出していた国です。ハンガリーは熊本では4位でしたが、世界の強豪国として知られています。ジュニアコーチのローランドさんの出身国でもあります。このように、世界の強豪国、一流国でさえ予選リーグで敗退してしまうのですから、まさに厳しい大会と言えるでしょう。

準決勝リーグは、6チームずつの2グループで行われています。第1グループが、クロアチア、アイスランド、デンマーク、ノルウェー、オーストリア、ロシアの6カ国、第2グループが、フランス、ポーランド、スペイン、チェコ、ドイツ、

スロベニアの６カ国で戦われました。

第１グループでは、クロアチアがアイスランドに引き分けたものの、４勝１分けでセミファイナルに駒を進めています。そのアイスランドは３勝２分けでセミファイナルに進んでいます。ディフェンディングチャンピオンのデンマークは、予選リーグでセルビアに敗れたのが響き、３勝２敗で５・６位決定戦に回りました。熊本世界選手権優勝のロシアは、５敗で最下位に沈みました。

第２グループでは、フランスが予選リーグのスペインとの１引き分けを引きずってはいましたが、４勝１分けでセミファイナルへまず進出しました。２番手争いでは、ポーランドとスペインが３勝１敗１分けで並びましたが、対戦間の成績32対26で２位にポーランド、３位にスペインと言うことになりました。総得失点差では、スペインが＋19、ポーランドが＋４でしたが、大会ルールで対戦間が優先されていたためこのような結果になりました。

準決勝では、アイスランド対フランスが28対36で、フランスが決勝へ進出。クロアチア対ポーランドが24対21でクロアチアが決勝へ進出しました。

３位決定戦は、26対29でアイスランドが勝利を収めました。

決勝は、21対25でフランスが2006年に続き２回目のヨーロッパチャンピオンに輝きました。

最終順位は、１位：フランス、２位：クロアチア、３位:アイスランド、４位:ポーランド、５位：デンマーク、６位：スペイン、７位：ノルウェー、８位：チェコ、９位：オーストリア、10位：ドイツ、11位：スロベニア、12位：ロシア、13位：セルビア、14位：ハンガリー、15位：スウェーデン、16位：ウクライナでした。ユーゴスラビアが分かれてできた国から、クロアチア、スロベニア、セルビアの３国、旧ソ連が分かれた、ロシア、ウクライナなどが上位に入っていることは興味深いところです。

大会の観戦から

私が直接大会観戦できたのは、２日間の６試合だけでした。この６試合での興味深い事を述べておきます。

オーストリアは、女子ではヒポバンクでそのハンドボール活動は知られていましたが、男子では、世界の上位グループでその名前を聞いた記憶が乏しい国でした。今回は開催国と言うこともあるのでしょうが、９位と健闘したように思います。実際、過去のヨーロッパ選手権本大会には参加記録がありませんでした。

話はこれだけでなく、このオーストリアの監督が、日本の湧永製薬でプレーしていたダグル・シルグトソン氏でした。彼のベンチワークはとてもアグレッシブで、レッドカードを受けると言う一幕もありました。

このオーストリアと、今大会準優勝のクロアチアとの一戦。クロアチアは、前日のアイスランド戦を引き分けているため、余裕があったとは言えないと思いますが、エースのバリッチをベンチに置いてのスタートでした。そのためか、試合は終始オーストリア優位で進みました。バリッチは何度も監督のリノ・チャバルのところに、出場を懇願するため行っていましたが、チャバルは取り合いませんでした。結局のところクロアチアは11対10の１点リードで、前半を折り返しました。

後半はスタートからバリッチが出場。しかしながら、一進一退のゲーム展開で前半の流れは変わりませんでした。最終的には26対23の３点差でクロアチアの勝利となりました。クロアチアはすでに１敗１分けの状態でしたので、決して余裕があるとはいえない状態とおもいますが、監督のゲームプランはどうであったのか、現在世界一のセンタープレーヤーといわれるバリッチの態度・行動などに、非常に興味深いものがあります。

オーストリアチーム。上段左から２番目がダグル・シルグトソン氏

EHFトップコーチセミナー

このEHFトップコーチセミナーは、1996年からヨーロッパ選手権時に開催されています。今回は偶然にもヨーロッパの友人からの誘いがあり、開催２週間前に参加することにしました。ここでは、このセミナーの概要を述べておきます。

セミナーは、オーストリア、チェコ、ドイツ、ハンガリー協会などの、公認指導者資格の研修コースになっています。ヨーロッパ各地からの参加が主ですが、運営のペーター・フローシェル氏からは、ハンドボールの発展のために開催しているので、ヨーロッパ以外からもウェルカムとのことを聞きました。今回は、一番遠いところから来たのがオーストラリアの３人でした。２番目に遠いところからが、日本からの私でした。クロージングセレモニーでは、オーストラリアの人たちと一緒に遠くから来たということだけで記念品を戴きました。その他では、アメリカのソルトレイクシティ、アジアのイランなどからも来ていました。特に、イランの人達が、閉会後にEHFの要人や講師に沢山のお土産を持ってきて、積極的に交流していたのは印象的でした。

開催期間は、ヨーロッパ選手権期間中の１月24日から27日までの、４泊４日間で、２日目、３日目は午後ヨーロッパ選手権の観戦をしました。大会がすでに終盤ということもあるでしょうが、目の前で見た試合を含め、大会の分析結果がすぐに講習内容として提示されるなど、大変に興味深いものでした。

講師陣は、スウェーデンの、マッツ・オルソン氏、同パー・カーレーン氏、ウォルフガング・ポラニー氏（EHF・MCメンバー）、Sandor Andorka氏（EHF・CCメンバー）などでした。特に、パー・カーレーン氏は、スウェーデンの切手の絵柄にもなっている人ですが、現役時代は、左利きのポストで特徴あるプレーをして世界選手権でも活躍をしていましたし、まさに赤鬼のバイキングという様な、荒々しいプレーをしていたように思います。しかし、今回久しぶりにその姿を見たのですが、紳士然とした立ち振る舞いは、プレーヤーとして見ていた時とは違っていて、とても印象的でした。

第８回ハンドボールコーチング研究会

平成 22 年 3 月 19 日、駒澤大学において、第 8 回ハンドボールコーチング研究会が開催されました。本研究会は、全国指導者が自身の経験や・知見を持ち寄り、実際の現場で有用な情報を共有する機会として位置付けられています。

研究会の発表内容については、本誌で連載報告していただく運びとなりました。

今月は明石光史先生（福岡大学スポーツ科学部）の発表内容「ハンドボール競技におけるサイドシュートの決定要因」を報告させていただきます。なお、他の発表については次号以降で報告を連載いたします。

(財)日本ハンドボール協会指導委員会研究部会　舎利弗　学（学校法人松韻学園福島高等学校）

ハンドボール競技におけるサイドシュートの決定要因

明石 光史（福岡大学スポーツ科学部）
藤井 寛之（山口県立下松工業高等学校）　田中　守（福岡大学スポーツ科学部）

キーワード：ハンドボール、クラブチーム、連携強化活動、競技力向上、実践研究

【緒　言】

ハンドボール競技におけるシュート局面は、その多くがシューターとゴールキーパー（以下、GK）との 1 対 1 で構成され、得点の成否に至るまでの相互の駆け引きは、観客を魅了するものである。その中でもサイドシュートは、ゴールポストに対するシュート領域が狭くなるが、シュート決定率は高いため、その成否は攻撃の幅を広げたり、ゲームの流れを変えるものと言える。従って、その重要さゆえにシュート技術やバリエーションには目覚しい進歩がある。

そこで本研究では、大学トップレベルでプレーをするサイドプレーヤーの動きに着目し、サイドシュートの決定率を高める要因について検討することを目的とする。

【方　法】

1．対象者：平成 21 年度全日本学生ハンドボール選手権大会に出場したベスト 16 以上のチームに所属する男子サイドプレーヤーの合計 23 名（19 ～ 22 歳、身長 176.9 ± 6.3cm）。

2．分析方法：決勝 1 試合、準決勝 2 試合、準々決勝 1 試合、2 回戦 1 試合、計 5 試合をビデオで撮影した。ビデオの撮影場所は、サイドシュートを中心としたコートのゴールポスト側方から行った。

3．分析内容：撮影したビデオを再生し、以下の内容について分析した。

①利き手、②ポジション、③ポジショニング（ボールを保持する前の位置）、④歩数（ボールを保持してからシュートまでの歩数）、⑤踏み切り足、⑥跳躍角度（踏み切り時の角度）、⑦跳躍方向（踏み切り後の方向）、⑧ボールポジション（シュートを打つ時のボールの位置）、⑨シュートタイミング、⑩間合い（シュートを打つ時の GK との距離）、⑪シュートコース（ゴールを 9 等分にして GK を通過した時点のコースとループシュート）、⑫シュートの成否

【結果及び考察】

本研究における対象試合 5 試合でのサイドシュートの総本数は 66 本となり、右サイド、左サイドの決定率の差はほとんど無く、各々 44.8%、43.2% となった（図 1）。女子ジュニア世界選手権（ハンガリー）における上位 8 チームのサイドシュート決定率は約 55.3%であった[2] ことから、本研究での両サイドシュート決定率 43.9% はかなり低い値と考えられる。

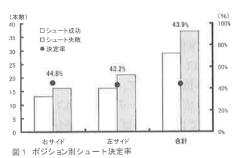
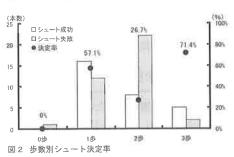
ボールを保持する前のポジショニングは、全体の約 7 割がアウターゴールライン付近であり、その決定率は 39.6% と低かった。サイドラインにポジショニングした場合では、シュート数は少なかったが 71.4% と高い決定率になった。

シュートまでの歩数は、3 歩の場合で最も高く 71.4%、1 歩の場合では 57.1%の決定率であった。また、2 歩の場合では 26.7%という低い決定率だった（図 2）。下川ら[1] は、「ボールを受け取ってからジャンプするまでの局面では、歩数を減らすことによって、ディフェンスとの接触も避けられ、GK に良い位置取り（準備）をさせなくできる」と述べている。従って、2 歩より 1 歩の早いタイミングでのシュートが、シュート決定率を高める要因と考えられる。

3 歩の場合で最も決定率が高かったことは、3 歩という歩数を十分活用し、シュート時の角度を大きく取り、ゴールポストに対するシュート領域を広く出来たサイドシュートであったと考えられる。

図 1　ポジション別シュート決定率

跳躍角度では 30 ～ 35 度の本数が最も多く、決定率は角度が小さいほど低く、角度が大きいほど高くなった。また、跳躍方向では、総本数の約 65 %がコート中央方

図 2　歩数別シュート決定率

向に跳躍しておりその決定率は 44.2%であった。

ボールポジションでは、頭より上の高さ、頭の高さが約9割の本数を占めており、その決定率は約4割程度であった。肩の高さでは、本数は少ないが8割という高い決定率であった。

シュートタイミングは、シュートの上がり際、下がり際で分析を行い、全シュート数の約9割が下がり際だった。決定率は、上がり際が 75.0%、下がり際が 39.7%であった。

GK との間合いでは2～3m程度のシュート数が多かった。また、3m付近での決定率は高く、近い間合いの1m付近での決定率は低かった（図3）。また、ループシュート時の GK との間合いにおいても2～3mでの決定率が高かったことから、シュートの成否を決定する適切な距離は2～3mの範囲と考えられる。

シュートコース別の決定率では、遠目のシュート決定率が高く、近目の決定率は低い結果となった（図4）。サイドシュートはゴールポストに対するシュート領域が狭いので、シューターはその領域が広くなる方向へ（コート中央方向）跳躍を行うことが多い。その結果、シューターとゴールとの間に位置取る GK にズレが生じ、遠目のシュート決定率が高くなったと考える。また、真中上においても高い決定率となった。このコースでは、ジャンプの上がり際のタイミングの時に3本中3本のシュートを決定していた。

最後に、実際のサイドシュートは、本研究で細分化したそれぞれの動作と状況が一連の流れで成り立っていると考え、いくつかの動作と状況を組み合わせて決定率の分析を行った。

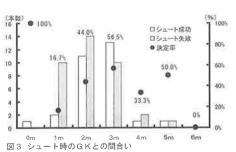
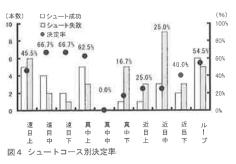



図3 シュート時のGKとの間合い

図4 シュートコース別決定率

実戦においても、指導現場においてもよく見られるシュートの動作と状況として「アウターゴールライン付近にポジショニングし、コート中央方向へ跳躍、シュート領域を広げるために十分な空中移動を行い下がり際でシュートを打つ」といったシュートが挙げられる。実際、66本中31本がそのような状況のシュートであったが、強打の決定率は 28.0%と低い結果となった（ループシュートの決定率は、60.0%)。上述した一連の動作と状況の中で、ボールを保持してから1歩での速いタイミングの決定率を分析してみると、強打で 54.5% と高い決定率となった（図5)。「アウターゴールライン付近にポジショニングし、コート中央方向へ跳躍、下がり際で打つ」というシュートにおいて、ボールを保持してから1歩の少ない歩数での跳躍は、GK の位置取りを不十分にさせ、サイドシュートの決定率を高める要因の一つと考えられる。

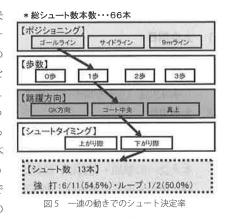



図5 一連の動きでのシュート決定率

【まとめ】

サイドシュートの決定率を高める要因として、本研究結果を以下のようにまとめた。

1. 助走歩数：ボールを保持してから1歩
2. 踏み切り角度：30 度よりも大きい角度
3. ゴールキーパーとの間合い：2～3m付近
4. シュートコース：GK とのズレを生じさせ、手足が届きにくい遠目脇と股下
5. タイミング：角度を十分に取り GK とのズレを生じさせるシュートで、上がり際のタイミングでの真中上段を打ち抜くシュートを織り交ぜる

【参考文献】

1）下川真良、他：ハンドボールにおけるサイドシュートの研究，ハンドボール研究 11：104-110，2009

2）水上一、岡本大:女子ジュニア世界選手権大会（ハンガリー）の戦術分析　新ルールの影響（ゲームの高速化と得点力アップ）IHF C.C.M., Tactics of handball in the World: 428-431, 2003

第9回ハンドボールコーチング研究会大会　開催要項

日本ハンドボール協会 指導委員会研究部会 ハンドボールコーチング研究会

1．大会期日

2011年3月12日（土）・13日（日）　9時～11時30分

＊当日の午後　日本リーグプレーオフが開催されます。

＊12日（土）9時から、水上一（筑波大学名誉教授）先生の基調講演があります。

2．大会場所

駒沢大学深沢キャンパス2-1講義室　〒158-0081 東京都世田谷区深沢6-8-18

3．大会参加資格

本大会への参加・発表は、原則として（財）日本ハンドボール協会に所属・登録をしたものとしますが、ハンドボールの発展に努力する者であれば、研究部会の同意を得て参加・発表できます。参加・発表に際して必要な実費は参加・発表者が負担することとします。

4．参加者・発表者採用の決定

大会参加・発表の採用・不採用の決定は、参加希望者からの参加申請書をもとに、財）日本ハンドボール協会指導委員会に設置された研究部会事務局で行い、不採用の場合本人に通知します。大会で発表を希望する方は、参加申込書に発表抄録を添えて2011年2月21日までに、事務局（東海大学　栗山）宛て送付され、受理された場合とします。

5．発表時間

発表：10分　質疑応答：5分

6．研究会用抄録とその内容

抄録の内容は、ハンドボールに関する原著論文、実践研究、事例報告、研究資料等に準じた内容で未発表のものとします。

7．参加申請書、発表抄録の送付先と期限

送付先：メールアドレス：mkuriyama@nifty.com 宛てお願いします。

＊メール送信の際の件名に「ハンドボール研究会参加申請書」を、また「送信者名」をご記入戴き、「添付資料」で栗山まで送信してください。

＊メールでの送信以外は、下記住所宛て書留郵便にて送付して下さい。

〒259－1292　神奈川県平塚市北金目4－1－1　東海大学体育学部

栗山雅倫（ハンドボール研究会事務局）090－3509－9190

参加・発表申請・抄録の締め切り期日：2011年2月21日（月）

8．大会参加費用

コーチング研究会会費・大会参加費3,000円　大学生特別参加1,000円（研究誌の配布なし）

大会参加者は当日徴収します。（大会抄録の制作費、ハンドボール研究、研究会の連絡費、会議費などに使います）

9．大会抄録の送付

大会に参加されない研究会会員で大会抄録及びハンドボール研究を希望される方は、大会参加申請書（不参加）と3,000円を現金書留にて送付して下さい。

10．宿泊ホテルの紹介

特に致しませんので、各自で予約してください。

ご不明な点は下記へお問い合わせください。

ハンドボール研究会担当　舎利弗学（学校法人福島高等学校）E-mail:manabu@mopera.ne.jp　TEL:090-3147-4978（携帯）

平成22年度アンチ・ドーピング講習会（(財)日本ハンドボール協会主催）報告

日時：平成22年11月3日（水曜日）　会場：味の素ナショナルトレーニングセンター 研修室

毎年1月に発効される世界ドーピング防止機構（WADA）規程国際基準による禁止表、並びに治療目的使用に係る除外措置（TUE）は一部変更となる。そのため少なからずスポーツの現場においては混乱が生じている事は否めない。

そのため、アンチ・ドーピング特別委員会と医事委員会は特に影響が大きい各カテゴリーのナショナルチームスタッフ（監督、コーチ、トレーナー、ドクター等）の啓蒙／教育を主たる目的として講習会を企画した。

さらに今後活動が期待されるスポーツファーシスト、さらに医事医員、アンチドーピング医員計22名の参加にて講習会が行われた。

講師は、（財）日本アンチ・ドーピング機構　赤間高雄氏に依頼。

内容は、（1）大会前のTUE申請について（2）大会現場での治療における禁止薬物についての2部構成で2時間の講義が行われた。

現場のスタッフとしては、（1）一部TUE申請が必要な糖質コルチコイドの使用方法に関する混乱の解決（2）気管支喘息のTUE申請の実際（3）点滴（輸液）の解釈と対処方法についての日頃の問題点が解決しました。

しかし、講義の中でも2011年の変更点を示されたが、毎年の変更に対して現場の混乱を生じさせないためには、さらに多くのハンドボール関係者を対象に毎年講習会を主催する必要性を感じた次第です。

また、選手／競技関係者はどなたでもJADAのホームページの "REAL WINNER" からeラーニングでドーピング問題を学習できますので、自己責任・防衛・研鑽の意味でも是非1度アクセスして下さい。http://www.anti-doping.or.jp

熊本赤十字病院　整形外科　佐久間 克彦

第9回 大阪スポーツフォーラム OSAKA SPORTS FORUM

師走の候、先生方には時下益々ご清祥の段、お慶び申し上げます。さて、この度下記のとおり「第9回　大阪スポーツフォーラム」を開催致します。このフォーラムは、選手・トレーナー・コーチ・ドクター・理学療法士の先生など、スポーツ現場に携わる全ての方々を対象にした、"より現場に近く" をモットーに開催する、スポーツ医・科学の講演会です。
ご多用中とは存じますが、何卒皆様方のご参会を賜りますようご案内申し上げます。

2011年3月5日（土）15：00～
会場：ビッグアイ　国際障害者交流センター　http://big-i.jp
大阪府堺市南区茶山台1－8－1　TEL　072-290-0900
会費：1,000円（予約不要）

●● プログラム ●●

各演題60分

●演題Ⅰ　**「膝 前十字靭帯損傷予防プログラムの実際」**
広島大学大学院保健学研究科教授　医学博士　**浦辺　幸夫　先生**
日本体育協会公認アスレティックトレーナーマスター

●演題Ⅱ　**「ハンドボール日本代表選手のコンディショニング」**
トレーナーズ・フォー・アスリート　**赤尾　和彦　先生**
ハンドボール男子日本代表トレーナー

●トークショー　**「ハンドボール　メジャー化宣言」**
ハンドボール日本代表　大崎電気所属　**宮﨑　大輔　選手**
MC　広瀬奈美

日本整形外科学会認定の教育研修会に認定されています。（受講料：1単位1,000円（単位希望の先生のみ））
（演題Ⅰ：必須分野番号12（膝・足関節・足疾患），13（リハビリテーション），運動器リハビリ医資格　1単位）
（演題Ⅱ：必須分野番号12（膝・足関節・足疾患），13（リハビリテーション），スポーツ医資格S-F-22-0　1単位）
日本リハビリテーション医学会専門医・認定臨床医の生涯教育研修会に認定されています。（5単位）
日本医師会 認定健康スポーツ医学 再研修会に申請しています。（演題Ⅰ・Ⅱ　各1単位）
大阪府医師会 生涯研修システム登録講習会に申請しています。当日はチケットをご持参ください。

大阪スポーツフォーラム　世話人　辻本　晴俊（近畿大学医学部堺病院　整形外科・リハビリテーション科准教授）
大里　佳之（パンジョスポーツクリニック　院長）
事務局　パンジョスポーツクリニック内
〒590-0115 大阪府堺市南区茶山台1－3－1　パンジョ5F
TEL：072-290-2500　FAX：072-290-2501
共　催　久光製薬㈱／科研製薬㈱

平成22年度J.H.A.公認審判員A・B級審査結果について

（財）日本ハンドボール協会審判部審査指導委員会委員長　越田 義昭

平成22年度J.H.A.公認審判員A・B級審査会が終了した（J.H.A.レフェリーコース・実業団レフェリーコースは年度末に実施予定）。今年度はA級の合格率が例年に比べて著しく低かったが、採点基準も合格ラインも例年どおりである。事実、合格者数そのものは例年と大差ない結果となった。最近4年間の受験者数と合格者数、合格率を比較すると表1のようになる。

平成22年1月22日（金）〜23日（土）に実施した書類審査で、不合格者はA級1名、B級では9名もいた。書類審査では、審判員講習会・研修会の受講（毎年1回以上）、上級申請に必要な担当公式試合数、および全日本大会やブロック大会の試合担当実績を確認するが、講習会の未受講や担当公式試合数の不足により不合格となった受験者が多かった。

競技規則筆記試験による不合格者が例年より多かった。競技規則問題集を持ってない受験者もいた。競技規則問題集も（財）日本ハンドボール協会より販売されており、レフェリーの必需品である競技規則書、競技規則必携書、競技規則問題集の3点セットを常に携行するよう心がけて欲しい。

実技試験については、レフェリング技術は勿論のこと、正しい競技規則の適用、正しいジェスチャー、走法と走路なども重要な要素となる。残念ながら、段階的罰則の基準や7mスローの判定基準が首尾一貫しない、攻撃側の違反を判定できない、あるいは正当な防御を違反と判定してしまう受験者が目立った。A・B級ともに不合格者の多くが実技試験で合格ラインに達しなかったこと（資料1参照）を踏まえ、来年度以降の受験者にはレフェリング技術に対する研鑽を十分に積んでおかれるよう切望する。そして、やはり最も大切なのは人間性であろう。日ごろから、そして審査期間中もレフェリーとしての立ち居振る舞いに気を配っていただきたい。

上記審査会にあたり、各開催地元の関係諸氏には受験者、審査指導委員ともども大変お世話になり、誌面を借りて深甚なる謝意を申し上げる次第である。最後に、合格者諸君（資料2参照）には心よりお祝い申し上げるとともに、今後さらなるレフェリング技術の向上を目指し、より一層の努力を積み重ねられることを願ってやまない。

表1　年次別J.H.A.公認審判員A・B級審査会結果

実施年度	A級：合格者数／受験者数（合格率）	B級：合格者数／受験者数（合格率）
平成19年度	26名／27名（96%）	28名／45名（62%）
平成20年度	14名／23名（61%）	39名／53名（73%）
平成21年度	24名／30名（80%）	40名／53名（75%）
平成22年度	19名／36名（52%）	35名／52名（67%）

資料1　平成22年度J.H.A.公認審判員A・B級審査の概要と結果

【A級】
書類審査：申請者41名（うち合格者40名、不合格者1名）
審査会：
平成22年7月16日（金）〜18日（日）本宮総合体育館ほか（福島県本宮市）
受験者36名（うち合格者19名、不合格者17名）および欠席者4名
不合格理由の内訳：競技規則筆記試験4名および実技試験15名
（2名は両試験に不合格）
各試験の内容　①競技規則筆記試験（100点満で88点以上が合格）
②実技試験（100点満で65点以上が合格）
③体力試験（ヨーヨーテスト：男子7回以上、女子5回以上）

【B級】
書類審査：申請者68名（うち合格者59名、不合格者9名）
審査会：
北地区審査会　平成22年6月18日（金）〜19日（土）福島県本宮市
東地区審査会　平成22年6月25日（金）〜27日（日）千葉県香取市
中地区審査会　平成22年9月18日（土）〜20日（月）和歌山県和歌山市
西地区審査会　平成22年5月7日（金）〜9日（日）佐賀県神埼市
以上4地区で開催
受験者52名（うち合格者35名、不合格者17名、欠席者7名）
不合格理由の内訳：競技規則筆記試験5名および実技試験13名
（1名は両試験に不合格）
各試験の内容　①競技規則筆記試験（100点満で80点以上が合格）
②実技試験（100点満で55点以上が合格）

資料2　平成22年度J.H.A.公認審判員A・B級合格者一覧

【A級合格者19名】
今野秀樹（北海道）、小川至門・内記　徹（岩手）、塚本　光（東京）、後藤宣夫・稲生淳一（千葉）、船津克弘（愛知）、加藤元規・土松稔和・梅木信男（岐阜）、水内隆夫・小林智隆（新潟）、柏　博聡・岡　浩之（石川）、向井勝二・上野修一（兵庫）、山本篤洋（岡山）、岡田雅央（山口）、大渡達也（長崎）

【B級合格者35名】
柏葉公平（岩手）、豊田貴幸・林田誓太郎（東京）、清水一伸・小川重和・飯田章二・高橋博光・渡辺大志（神奈川）、鈴木紀幸（埼玉）、天野賢治（山梨）、近藤　智（静岡）、浅野清隆・川瀬秀一・伊藤慎介・細井洋孝（愛知）、高橋英士（新潟）、上原一人（長野）、吉田　健（京都）、岡村敏行（兵庫）、國澤　隆・指野　緑・太田智子（岡山）、堀本　進・藤高　学（山口）、扇山貴司（愛媛）、古谷裕邦（大分）、亀川政文・貞包圭介・上岐克敏（佐賀）、原口佳也（長崎）、重村達浩（熊本）、徳留鑑一・宮内勇作（鹿児島）、比嘉　司・知念昌平（沖縄）

協会だより

平成22年度第2回理事会

日　時：平成22年11月6日（土）
13：30～16：10
場　所：味の素ナショナルトレーニングセンター研修室１・２
出席者（敬称略、名簿順）：
理事：渡邊佳英、多田　博、川上憲太、高村誠一、伊藤宏幸、角　紘昭、江成元伸、蒲生晴明、大橋則一、志々場修二、植村　彰、田中　茂、工藤雄三、松井幸嗣、河先　修、城川俊久、山本　一　　以上17名
監事：塩川安賢、荘林康次、高田日呂美　　以上３名
特任副会長：山下　泉、川上整司　以上２名
参事：石塚廣一、小西博喜、高山重雄、杉本眞一、前川和三、佐藤公美、佐藤喜一、村松　誠、近久紀人、山本　繁、藤森　徹、兼子　真　　以上12名
欠席者（敬称略、名簿順）：
理事：市原則之、西窪勝広、稲生　茂（委任状提出有り）
（事務局）茂木
以上、出席理事17名、委任状出席３名、出席監事３名、出席特任副会長２名、出席参事12名、事務局１名
議事録署名人　議長：渡邊佳英会長、川上憲太専務理事、植村　彰常務理事、工藤雄三理事

〈理事会成立の確認〉
本理事会が理事定数20名、出席17名、書面委任３名であり、財団法人日本ハンドボール協会寄附行為第26条に定められた３分２以上の出席のため、本理事会が成立していることが報告された。
次に議長の選出が行われ、寄附行為第25条、第３項に基づき、渡邊会長が議長となった。

渡邊会長より挨拶
今年は、ユース世界大会など多くの国際大会で、予選リーグを突破できない厳しい状況がありました。11月のアジア競技大会はロンドンへの中間点でもあり、ナショナル強化活動の成果を問われる大会であります。来秋のアジア予選に向け、今大会の結果を踏まえた対策が今後の最大の課題となると考えておりますので、皆様方の一層のサポートをお願いします。

川上専務より挨拶
協会全体の現状の課題について、４点申し上げます。一つは、再来年より公益財団法人に移行の予定ですが、現体制の洗い直しが求められ引き続き検討を重ねております。二つ目は、協会登録システムの構築であり、プロジェクトを立ち上げ検討しており早めの実施を目指しております。三つ目には、2013年には日本協会発足75周年を迎える事となり、記念誌発行含めイベントの企画を検討しております。最後は、社会人連盟の発足と更なる発展です。以上の通り、課題は多々ありますが、皆様のご支援で進めて参りたいと考えております。

〈議事録署名人の選出〉
続いて、渡邊議長より議事録署名人の指名が行われ、議長、川上憲太専務理事、植村彰常務理事、工藤雄三理事が指名され、満場一致で承認された。

議事進行は、審議事項より行うこととした。

審議事項

１．公益財団法人移行について
伊藤総務担当常務理事より、公益法人制度施行に伴う公益財団法人への移行について、来年６月には機関決定をし、再来年より移行する旨が説明された。
審議の結果、全員異議なく、本件は可決承認された。

２．2010年日本スポーツ賞推薦者について
伊藤総務担当常務理事より、2010年日本スポーツ賞候補者について、表彰委員会での候補者選考が説明され、ジャパンオープン初の４連覇香川銀行Ｔ・Ｈ、インカレ５連覇をすれば日本体育大学男子、アジア競技大会で金メダルを取れば、男子代表、女子代表が候補者としてあげられ、記録未決定の候補者があるが、アジア競技大会金メダル、インカレ５連覇、ジャパンオープン４連覇の順位とすることが提案された。
審議の結果、全員異議なく、本件は可決承認された。

３．新登録システム導入について
兼子参事より、MRS（Web登録システム）導入のメリットについて、早ければ、2011年度の登録から利用したい旨の提案があった。質疑応答では、実施に当たり都道府県協会への充分な説明が必要であるとの意見が出された。
審議の結果、全員異議なく、本件は可決承認された。

４．第62回全日本総合日本協会推薦チームについて
江成常務理事より説明があり、協会推薦として男子について、JHAジュニアアカデミー選抜チームを入れることが提案された。
審議の結果、全員異議なく、本件は可決承認された。

５．AHF大陸レフェリーコース開催について
植村常務理事より説明され、来年２月開催の実業団チャレンジ2011大会の中で開催する予定であることが提案された。
審議の結果、全員異議なく、本件は可決承認された。

6．75 周年記念誌について

村松 75 周年記念誌編集委員会委員長より説明され、75 年協会史として整理をすること、戦中戦後を含めた各種の写真や情報の提供についての依頼等が提案された。

審議の結果、全員異議なく、本件は可決承認された。

報告事項

1．日本協会の事業活動と課題について

伊藤常務理事より平成 22 年度中間報告について説明された。

2．強化報告（アジア競技大会他）ついて

兼子参事より、強化部のこれまでの事業報告とアジア競技大会、アジアビーチゲームス、女子アジア選手権、男子世界選手権について説明があった。

（多田副会長）

昨日アジア競技大会の壮行会があり、男女両監督とも金メダルを目指すと言っていた。ジャパンカップ等これまでの結果は良くない。

来秋のオリンピック予選を控え、アジア競技大会の結果を注視している。

結果次第で、対応を考えるべきだ。

（山本理事）

アジア競技大会で負けたら、オリンピック予選突破はない。勝つために十分やって欲しい。

3．平成 23 年度事業計画・予算策定について

伊藤常務理事より、平成 22 年度中間決算報告（第二次補正）が説明された。

4．スポーツ振興くじ・基金助成金について

伊藤常務理事より、スポーツ振興くじ・基金助成金について説明がされた。

5．平成 22・23 年度会議日程案（役員改選）について

伊藤常務理事より、平成 22・23 年度会議日程案（役員改選）について説明がされた。

6．ホームページ、機関誌について

大橋常務理事より、ハンドボールのバリューアップに向けホームページの活用及びバックナンバーを含めた機関誌の HP 掲載について説明がされた。又、機関誌企画記事への積極的な投稿についての依頼があった。

7．平成 22・23 年度国内・国際大会日程について

江成常務理事より、平成 22・23 年度国内・国際大会日程について説明がされた。

8．審判活動報告について

植村常務理事より、全日本総合大会審判ノミネート、全国大会中間での反省と課題、国際審判員の現状、レフェリーアカデミーの進捗状況、A/B 級審査結果などについて説明がされた。

9．国際関係（海外所属選手リリース、国籍変更他）について

蒲生常務理事より、国際関係（海外所属選手リリース、国籍変更他）について説明がされた。

中東諸国、特にカタールについて、国籍変更した選手の起用が目立つ。現状規則上の違反はないにしても、倫理面で大きな問題がある。

目下各調査をしており、日本協会としての見解を今後まとめて行く。

10．社会人連盟進捗状況について

江成常務理事より、社会人連盟進捗状況について説明がされた。

11．平成 22 年度第 1 回全国理事長会議について

兼子参事より、平成 22 年度第 1 回全国理事長会議について説明がされた。

12．普及指導部報告（小学生委員会他）について

角常務理事より、普及に関し高校生の登録人数が 4 万人弱であるにも拘らず、その後の大学・一般の登録が 1 万人程度と継続が出来ていない点が補足説明された。指導委員会では NTS ブロックトレーニングの報告がされた。又、山本参事より、小学生の状況について説明が加えられた。

13．日本リーグ報告

高村常務理事より、日本ハンドボールリーグ機構の副会長に斉藤健氏（衆議院議員）が就任されたことなど、日本リーグの現状について説明がされた。

14．マーケティング活動報告について

大橋常務理事より、アジア競技大会壮行会開催、3 月のプレーオフでは BS12 が全試合生中継することなどが説明された。

15．がんばれハンドボール 20 万人会について

伊藤常務理事より、がんばれハンドボール 20 万人会について説明がされた。（10 月末：114,552 名）

16．日体協・JOC 創立 100 周年記念事業について

兼子参事より日体協・JOC 創立 100 周年記念事業について説明がされた。

17．その他

杉本参事より、全国理事会からの報告として、国体ふるさと制度の課題、小学生の普及は進んでおり公開授業などもあるがゴールポストが無いなどの現状、ジャパンオープンへの参加では地区優勝しても参加しないチームなど、遠征費の課題も出てる、等があった。

予定していた議案について全て終了したので、16 時 10 分に平成 22 年度第 2 回理事会は閉会した。

上記の決議を明確にするため、議長渡邉佳英会長、川上憲太専務理事及び議事録署名人 2 名植村彰常務理事、工藤雄三理事がこれに署名、押印する。

スコアールーム

高松宮記念杯 男子53回・女子46回全日本学生選手権大会

開催期日：2010年11月19日（金）～23日（火）
会　場：大阪市・大阪市中央体育館、舞洲アリーナ

【男　子】

▼1回戦

日本大学（関　東）32（15－8、17－14）22 名古屋大学（東　海）
福岡教育大学（九　州）32（16－10、16－19）29 金沢大学（北信越）
同志社大学（関　西）31（17－13、14－12）25 法政大学（関　東）
函館大学（北海道）38（19－15、14－18）36 桃山学院大学（関　西）
（1－1　延　長　4－2）
筑波大学（関　東）37（18－13、19－11）24 中部大学（東　海）
国士舘大学（関　東）38（17－11、21－7）18 京都産業大学（関　西）
関西大学（関　西）45（22－9、23－11）20 秋田大学（東　北）
中京大学（関　西）34（17－7、17－10）17 国際武道大学（関　東）
日本体育大学（関　東）44（24－10、20－10）20 朝日大学（東　海）
福岡大学（九　州）26（12－11、14－13）24 明治大学（関　東）
中央大学（関　東）31（19－8、12－15）23 大同大学（東　海）
順天堂大学（関　東）26（13－14、13－10）24 名城大学（東　海）
早稲田大学（関　東）29（16－9、13－9）18 大阪経済大学（関　西）
関西学院大学（関　西）28（14－10、14－16）26 東北福祉大学（東　北）
高松大学（中四国）37（14－10、23－8）18 道都大学（東　北）
大阪体育大学（関　西）24（13－9、11－11）20 東海大学（関　東）

▼2回戦

日本大学 35（17－14、18－17）31 福岡教育大学
同志社大学 31（15－14、16－10）24 函館大学
国士舘大学 22（13－8、9－11）19 筑波大学
中京大学 29（14－14、15－13）27 関西大学
日本体育大学 33（15－16、18－11）27 福岡大学
中央大学 35（19－11、16－16）27 順天堂大学
早稲田大学 30（15－18、15－8）26 関西学院大学
大阪体育大学 28（9－10、19－11）21 高松大学

▼3回戦

日本大学 38（21－12、17－15）27 同志社大学
国士舘大学 25（12－10、13－12）22 中京大学
日本体育大学 39（20－14、19－15）29 中央大学
早稲田大学 30（18－15、12－12）27 大阪体育大学

▼準決勝

国士舘大学 32（9－16、16－9）29 日本大学
（3－1　延　長　4－3）
日本体育大学 37（16－13、21－19）32 早稲田大学

▼決勝

国士舘大学 28（10－15、18－12）27 日本体育大学

【女　子】

▼1回戦

日本女子体育大学（関　東）32（16－17、11－10）30 福岡大学（九　州）
（2－0　延　長　3－3）
福岡教育大学（九　州）31（15－3、20－8）11 北星学園大学（北海道）
天理大学（関　西）38（18－11、20－17）28 富士大学（東　北）
国士舘大学（関　東）42（19－10、23－10）20 至学館大学（東　海）
環太平洋大学（中四国）20（13－5、7－13）18 東北福祉大学（東　北）
早稲田大学（関　東）36（16－8、20－15）23 沖縄国際大学（九　州）
武庫川女子大学（関　西）28（11－8、17－11）19 茨城大学（関　東）
立命館大学（関　西）24（11－9、13－7）16 富山国際大学（北信越）

▼2回戦

筑波大学（関　東）22（13－11、9－8）19 日本女子体育大学（関　東）
福岡教育大学（九　州）34（16－8、18－16）24 同志社大学（関　西）
東海大学（関　東）24（14－8、10－13）21 天理大学（関　西）
大阪教育大学（関　西）29（18－10、11－16）26 国士舘大学（関　東）
日本体育大学（関　東）27（13－12、14－10）22 環太平洋大学（中四国）
関西大学（関　西）26（13－9、13－9）18 早稲田大学（関　東）
東京女子体育大学（関　東）26（13－8、13－14）22 武庫川女子大学（関　西）
大阪体育大学（関　西）40（20－10、20－3）13 立命館大学（関　西）

▼3回戦

筑波大学 26（10－13、16－11）24 福岡教育大学
大阪教育大学 36（20－10、16－11）21 東海大学
日本体育大学 27（13－7、14－11）18 関西大学
大阪体育大学 25（14－8、11－14）22 東京女子体育大学

▼準決勝

大阪教育大学 29（10－10、19－13）23 筑波大学
大阪体育大学 26（16－9、10－11）20 日本体育大学

▼決勝

大阪教育大学 32（11－14、14－11）30 大阪体育大学
（2－3　延　長　5－2）

スポーツイベント・ハンドボールは斯界唯一の専門雑誌として、全国のハンドボーラーを応援します

月刊誌　**只今年間購読キャンペーン中！**

スポーツイベント・ハンドボール

定　価　**800円**（本体762円）年間購読　**9,600円**

1年間で13冊
（1号分をサービス）

ご注文はインターネットでのオンラインショップご利用が便利です。送料無料
http://sportsevent.shop-pro.jp/

スポーツイベント・オンラインショップ　検索

スポーツイベント・ハンドボールの年間購読がお得になりました。通常は年間12冊のところ1号分サービスして13冊分のご契約となります。

新規契約はもちろんのこと、これまでご契約いただいていたお客様の年間購読の更新についても、同様の適用となります。

どうぞこの機会に弊社オンラインショップ、郵便振替、富士山マガジンサービスを通じてお申し込みください。なお、半年契約、書店での年間契約はこのサービスが適用されませんのでご了承ください。

テクニカルハンドブック

"宮﨑大輔MODEL"テクニカルブック
ダイナミック・ハンドボール
松井幸嗣・斎藤慎太郎・川上整司共著
定価**1,700円**
スーパープレーの連続写真が満載!! 宮崎大輔選手を中心に日体大選手がモデルとして登場！連続写真を主体に構成されたスキルブックです。

日本初のGK技術書
ゴールの鉄人
山崎正利著
定価**1,300円**
初めて刊行されたゴールキーパーだけのテクニックを論じた書。すべてのシュートに対する基本動作から駆け引きに至るまで、豊富な連続写真を使って分かりやすく解説。

「パストレーニング145」
パスの達人
山崎正利・瀧本明弘共著
定価**1,500円**
基本的なパス・トレーニングに始まり、セットオフェンス、速攻のトレーニングへと展開。毎日のトレーニングがマンネリ化しがちなチームにとって、まさに福音の書。

トレーニング読本（セット割り引きあり）

ドイツハンドボール協会技術委員会編
ハンドボール練習法250
土井秀和・水上一・笹倉清則共訳
定価**2,500円**
ハンドボールの本場、王国として名高いドイツで生まれた必見の一冊。実戦に役立つハンドボール練習法を250パターン以上も紹介。

勝利へのパワートレーニング
山崎正利・鈴木正之著
定価**2,600円**
障害を予防するための筋力アップを含めてハンドボーラーのためのパワーアップトレーニングを、写真やイラスト、図を多く取り入れて分かりやすく解説。

お申し込み方法
①弊社インターネットのオンラインショップをご利用ください（送料はすべての商品とも無料）。お支払いはカード、コンビニ、代引き、郵便振替を利用できます。
②郵便振替の場合は郵便局備え付けの振替用紙をご利用ください。口座番号 00140-5-11951 加入者名(株)スポーツイベント ※通信欄にご希望商品名を明記ください。
③そのほか電話、FAX、メールにてご注文、お問い合わせください。

FLY HIGH

ハンドボールの革命児
FLY HIGH!
一宮崎大輔 もっと高く一
久保 弘毅 & スポーツイベント特別取材班 著
定価**1,500円**
「もっと高く跳びたい」—。ハンドボールと出会った時から、テレビでも活躍する"スタープレーヤー"となった現在まで、宮崎大輔は、飽きることなく跳び続けている。

世界への道

"義足のハイジャンパー"鈴木徹の生き様
世界への道
久保弘毅 著
定価**1,500円**
日本人初の義足のプロ陸上選手・鈴木徹。単なる障害者スポーツの枠を越え、一人のアスリートとして世界に挑む。彼の熱き思いと独特のプラス思考をここにまとめた。

ハンドボール名将列伝（セット割り引きあり）

ゼロからの日本一
「一秒一生」
横浜商工高校ハンドボール監督
渡辺靖弘の挑戦
定価**2,500円**
「横浜商工高等学校」ハンドボール部監督・渡辺靖弘の半生を描いた書。壮絶ともいえる渡辺の生き方は多くの共感を呼び、全国紙書評においても絶賛されている。

ハンドボールにかけた熱き魂
「名門復活」
明星高等学校ハンドボール前監督
鈴木　亮一
定価**2,500円**
「かつての名門」というプレッシャーに打ち勝ち、悲願の全国制覇に辿り着くまでには長い道のりがあった。名門復活に人生を捧げた鈴木亮一の苦闘をつづった一冊。

ハンドボール—我が人生の道しるべ
「気は技を制す」
群馬県立富岡東校校長　全国高体連ハンドボール専門部長
宇佐美幸彦
定価**2,500円**
正念場では技術よりも気力が勝負の分かれ目となることを自らの肌で感じた宇佐美は「気は技を制す」という言葉にすべての思いをこめた。それはスポーツに限らず人生万般に通じることだと確信していた。

〜じゃあじゃあ〜
当たって砕けろ！
大分国際情報高校ハンドボール部監督
冨松秋實の35年
定価**1,700円**
どんな時も生徒たちと真正面に向き合って男の心意気を伝え、ひるまず前に突き進んできたその半生は、スポーツ指導者や教員にとどまらず、すべての生き方に示唆を与えるものがある。

30周年記念DVD

全386号を完全収録
スポーツイベント・ハンドボールDVD
Anniversary Special
Digital-Library DISK
定価**29,400円**
『スポーツイベント・ハンドボール』のすべてを画像データ（PDF形式）にして3枚のDVDと1枚のDVDに収録。永久保存版のデジタルライブラリーとしてお届けします。

ハンドボール技術DVDシリーズ

ハンドボール技術DVD
金メダルへのトレーニング
各巻　8,400円
全10巻**84,000円**
韓国ナショナルチームを率いた鄭亨均氏が、そのトレーニングのすべてをあますことなく公開する。

ハンドボール技術DVD
世界のスーパープレー
各巻　8,925円
全6巻**52,500円**
スタッフを本場ドイツに派遣、ビデオで「世界のスーパープレー」を独占特撮！

高野亮（東京女子体育大学）の
システムハンドボール
各巻　9,450円
全8巻**75,600円**
噂のシステム、独特のコンビプレーの作り方などを初公開。

ハンドボール・トレーニング体系
「これでチームが強くなる」
各巻　9,450円
全6巻**56,700円**
240種類の目的別トレーニングを一挙に公開。

これでチームが強くなるII
新王国 沖縄の勝利学
各巻　8,400円
全6巻**50,400円**
小学生から成人まで、幅広い層の全国大会で日本一を量産し続ける沖縄の強さ、魅力に迫ります。

http://www.sportsevent.jp

株式会社スポーツイベント　〒101-0047　千代田区内神田2-4-2　グローバルビル4階
TEL 03-3253-5941　FAX 03-3253-5948　メール　handball@sportevent.jp

がんばれハンドボール20万人会「サポート会員」11・12月入会・継続会員

【栃　木】坂本　定芳【群　馬】高橋　潔【埼　玉】岡村　昭二、田中　孝、寺尾かほる、松本　英之
【東　京】佐藤　俊男、佐藤　映子、蒲生　澄子、岡前　義春、嵩　聰久、青山　俊介、金賀　東子、
仁平　好則、加藤　祐策、寺嶋　潔、原　正男【神奈川】田原やよい、白井香代子、福井　俊彦、加古川範子、
高澤　翔馬【長　野】後藤　政俊【富　山】吉水　慎一【石　川】伊藤　義直【福　井】松田　範幸、川島　英樹、
角谷喜代重【静　岡】村井美保子【愛　知】野田　清、佐藤壮一郎、山本　淳子【三　重】大石　博義、
細野　秀男【滋　賀】高畠　典克【京　都】守本幸三郎【大　阪】塩川正十郎、山中善之祐、徳光　弘介、
赤星　明【兵　庫】川島　宏【鳥　取】足立　逸郎【島　根】森江　和吉【岡　山】奥埜　啓子、奥埜　美峰
【広　島】山本　伸二、白石　隆【佐　賀】高橋　里江【長　崎】藤山　聖子【熊　本】藤田　八郎

【2月・3月の行事予定】

【会議】
2月19日(土)　第2回評議員会(東京)
2月20日(日)　第2回全国理事会(東京)
2月26日(土)　第3回理事会(東京)
3月19日(土)　新理事会(東京)

【大会】
2月11日(金)〜13日(日)
全日本実業団チャレンジ2011(福井県・永平寺町)

3月12日(土)〜13日(日)
第35回日本リーグプレーオフ
(東京都・駒沢体育館)

3月25日(金)〜30日(水)
第34回全国高校選抜大会(岩手県・花巻市)

3月26日(土)〜29日(火)
第6回春の全国中学生選手権大会
(富山県・氷見市)

※次号は3・4月合併号として4月1日に発行されます。

HANDBALL CONTENTS Jan.Feb.

(登録チームの購読料は登録料に含む)

福原愛（ANA）

（財）日本ハンドボール協会編
『ハンドボール』第五一六号
昭和四十年六月七日 第三種郵便物認可
平成二十三年一月二十六日印刷
平成二十三年二月一日発行
東京都渋谷区神南一—一—一
電話 代表〇三—三四八一—二三六一
振替 〇〇一二〇—七—一〇二九三
編集兼発行人 川上憲太
定価 年間三三〇〇円